
セレナ海賊団っ！

酢羅射無

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

セレナ海賊団っ！

【Nコード】

N1965Q

【作者名】

酢羅射無

【あらすじ】

セレナという14の女の子が病気で亡くなった母、セレナという女海賊の船を受け継ぎ、物語が始まって行く…

主人公 セリナ（14）

主なパーティメンバー ルードリル（26） ミュー（11） キ

アラ（16） エル（13） e t c

脚本です。セリフばっかです。

〽キャラ紹介〽（前書き）

このページはキャラ紹介だけです。絵とかばっかなので苦手な人は飛ばしてくださいね。

くキャラ紹介

主な登場人物

セリナ（14歳）

> i 2 3 0 7 7 — 1 9 5 4 <

今作の主人公。一応海賊の船長で西方ブルドロンス郷出身のお嬢さまでツインテールでツンデレ…もどき。

髪がハンマーになるというわけの分からない髪質の持ち主。仲間思いであるが、ツンデレに憧れているため、素直にならないようにしている。結構わかりにくい。

最近はお周りの仲間に比べて地味なのを気にしている。

ミュー（11歳）

> i 2 4 2 0 6 — 1 9 5 4 <

主人公より目立つちゃってる副主人公。元忍者で腕は立つ。基本は無表情だがたまに嫌な笑みを浮かべる。

最近の趣味はドリルで遊ぶこと。

秘密が絶えない少女。

キアラ（16歳）

> i 2 5 3 6 3 — 1 9 5 4 <

セリナの家仕える僕っ娘メイド。そして元ヤン。

現在はセリナの父親にセリナの面倒を見ることを頼まれている。

基本的にニツコニコしているが怒るとドーンツカーンっと、怖いらしい。

孤児だったのを弟のレンと共にセリナの父親に拾われた。

よくすら犬を殺す。

ルードルフ（26歳）

> i 2 5 5 9 9 — 1 9 5 4 <

ミューにドリルと言われるようになり、いつの間にか皆にもドリルと呼ばれるようになってしまった不憫な人。

存在を無視されることが多い。

あとあんまり同じ生命体とも思われていない。

セリナの母、セリナのが好きだった。今でもずっと一途に思っている。

そのせいか、ミューには年増好きだと思われている。

仲間の中で一番長くセレナ海賊団にいるのに一番弱い。

エル（13歳）

> i 2 5 5 5 5 — 1 9 5 4 <

男にしか見えない女忍者。

そのことに本人はずっと気付かなかつたらしい。

船の操縦が多少は出来るため、仲間にかなり期待されている。

リチエーヴェレ（不明）

オルディナトゥール（不明）

> i 2 5 5 4 5 — 1 9 5 4 <

緑がリチエーで赤がトゥール。

主にサポート役。

トゥールはパソコンの女の子。

胸の模様がスイッチになっていて、触ると止まったり動いたりする。
パソコン起動時は敬語で普段は普通の少女の喋り方。

リチエーの姉。

リチエーはトウルからの情報を受け取る専用の機械。
性別は不明だが多分男の子。
無口で紙と鉛筆で会話する。
正直あまり役に立たない子。

〽キャラ紹介〽(後書き)

このページは随時更新していきます。忘れていたらすいません……

序章（前書き）

この脚本は大量に挿絵があります。
苦手な方はご注意ください。

序章

むかしーし　むかし、というほどでもない昔にセレナという女海賊がいました。

最初は一人だった彼女もだんだん仲間ができていきました。

しかし、巷で有名になってきた頃、彼女は病気で亡くなってしまいました。

それからやがて団員はへっていきもう解散かというその時！！

一人の少女が立ち上がったのです！なんとその子は船長　セレナの娘、

セリナだったのです！！

そして当時１２歳だった彼女はセレナの船を受け継ぎ、見事新しい船長になったのでした〜w

それから２年の時が過ぎ、海賊団は金欠になりました。

なぜかというと、人手が足りなくて海賊らしい事がまったくできなかったからです。

今、団にいるのは、１４歳のまだ幼く船すら扱えない船長　セリナと、

今や唯一の男性ルードルフと、１年前に入ってきたセリナよりまだ幼い少女ミューと、

メイドのキアラと双子のねずみ　ルミとミル、犬のカンテレラ、鳥のカイ（いずれもメス）の　四人と四匹だけである。

もちろんこの中で船を動かせる人なんて一人もいませんから船も倉にしまったままです。

そんな時、船長はある決意をしました。

“母さんの形見だけこのままじゃあたし達全員餓え死してしまうわ。仕方ないから売りましょ。べっ、別にあんな達のことなんて、

ぜっ、全然心配なんて、してないんだからねっ！！”
と言ってなんと大事な船を売ってしまったのです。

こうして本当に名だけの海賊となってしまったセレナ海賊団は金と船を扱える人を探すべく、のんびりと、ゆるーっくり陸上を歩いているのでした。

> i 1 6 8 0 4 — 1 9 5 4 <

セリナ。14歳。セレナ海賊団の若き船長。

13歳頃からツンデレに憧れ、今では見た目だけはツンデレキャラになっている。（はず）

しかし、素のツンデレではないのでたまにえくと、とか言ってしまうようだ。

つか、こいつら完全に海賊でもなんでもないよね。

> i 1 6 8 0 5 — 1 9 5 4 <

ミュー。11歳。元忍者の新人。船長の座を狙っているらしい。

> i 1 6 8 0 6 — 1 9 5 4 <

ルードルフ。26歳。

あだ名がルードルフとかルーゴルフのひと（笑）

唯一の男性。

> i 1 6 8 0 7 — 1 9 5 4 <

キアラ。16歳。セリナの父親の家に仕えているメイド。

現在セリナの面倒を見ることを頼まれている。

常にニコニコ。優しい。

でも怒ると目を開いてドカーン。

とっても怖い。

序章（後書き）

挿絵の画力にばらつきがあるのは気のせいです。
ご注意ください。

- 第1賊 -

セリナ：………、一体ここはどこなのよ？

ルードルフ：え？どこって陸上じゃないっすかね？

セリナ：そんなのはわかってるわよ！！！！！！！！！！

そうじゃなくって、ここはどういう場所かって聞いているのよ！！

ミュー：まーまー落ち着いてくださいよ船長。そんなものルードリルなんかに聞いてもわかりっこないですよ。

ルードルフ：ルードルフだ！！誰がルードリルだ！！！！！！

ミュー：じゃあルーゴルフ？

ルードルフ：違えつつてんだろ！！！！！！いい加減変な名前ですわぶのやめろ！！！！！！！！

セリナ：あんたの名前なんてどうでもいいわよ！！！！！！！！！！

キアラ：そうですねっ！お嬢様のおっしゃる通りです！！今はここから抜け出すことが最優先ですわっ！

ミュー：……確かにそうですね。たしか、この森の先に町があるって言ってましたから私が出口を探してきます。

カンテレラ：ニャー！！（あたいも行くー！！）

カイ：キュルキューー！（私もー！！）

セリナ：あ、ありが……ありがとうだなんて言っていないんだからねっ！！！！！！

ルードルフ：は……船長もまた面倒くさいものに憧れたものだな……

ミュー：そうですね

キアラ：でもツンデレなお嬢様も可愛いですわっ！

セリナ：だっ、だからあたしはツンデレとか、そんなのに全然憧れてないんだからね——————！！！！！！（憧れてるけどっ！！）

続
く
ー

- 第2賊 -

なんだかんだで見事森から抜け出せたセレナ海賊団一行でしたw

セリナ：はー！ やつと抜け出せたわね……。あんたたちのおか・・・
おかげじゃないんだからねっ！！

ルードルフ：まあ、俺達つってもほとんどミューが道を切り開いて
ただけだな。

ミュー：私に感謝して下さいよね。

セリナ：ぜつ、全然感謝なんかしてないわよっ！！！！！！（してる
けどー！！）

キアラ：でもミューさんのしていたことはほとんど自然破壊でした
わね。もう森じゃなくなっちゃいましたわ。

ミュー：大丈夫ですよ。木にやる気があるならまた生えます。

ルードルフ：どういう意味！！！！！！！！！！？？？？？？

ミュー：わからないのなら家に帰ってドリルでもやってなさいルー
ドリル。

ルードルフ：馬鹿にするなあ！！！！！！！！つか、ガキに言われたく
ねーよ

セリナ：うるさいわよルードルフ…じゃない、ルードルフ…！！

ルードルフ：船長まで！？

キアラ：ところでミューさん、町はあとのどのくらいの中にあるのですか？

ミュー：私は知りません。船長が知っています。

セリナ：あっ、あたしも知らないわよ（知ってるけど）多分ルードルフが知ってるわ。

ルードルフ：えーと、確か…って知るかあああ！！！！！！

????：町は北に20kmに行った所にあるぜ。

キアラ：…あなたは？

エル：オレはエル。お前らは？

セリナ：あ、あたしはセリナ海賊団の船長セリナよ。訳あって今は陸にいるけど…。で、こっちが、

ルードルフ：ルードルフだ。

ミュー：元忍者だったミューです。

キアラ：僕はメイドのキアラですわっ！

エル：海賊…？そっちの男以外、とてもそんな風には見えないな。

セリナ：よく言われるわ。（初めてだけど…）で、あんたはここで何をしているの？

町まではだいぶ遠いみたいだけど。

エル：…見ての通り旅人さ。オレはあんたらが来た方向に向かって
いるんだ。
じゃあな。

ミュー：それは嘘ですね。あなた…私と同じ匂いがしますよ。

ルードルフ：それって…こいつが忍者ってことか？

ミュー：ええ。おそらく。

エル：…バレちまってはしゃーねえ。ああ、そうだ、
オレは忍者だ。

…正確には忍者でもあるというべきか。

セリナ：あんたはここを通る旅人に嘘を言って町から遠ざけようとしていたのね。

エル：…！…知っていたのか？

セリナ：ええ。当たり前よ。町はここから東に5kmくらい行った
所でしょ？

エル：…ああ、そうだ。

キアラ：でも、何のためにこんなことをしていたのですか？

エル：さあな。オレはただ依頼されただけだ。

セリナ：だったらここであたし達を始末しとかないでいいの？

エル：オレは言われた通りにやっただけだ。それで通られるならオレのせいじゃない。

セリナ：…そう。なら通らせてもらっわよ。

エル：…好きにしろ。…じゃあな。

セリナ：あつ！ちよつと待って！

エル：…なんだ？

セリナ：その…あ…あなた…船扱える？

エル：少しだけなら…。なぜそんなことを聞く？海賊なんだから船ぐらい扱えるだろ。

セリナ：うつ…。実は…な…なんでもないわよ！！！！じゃあね！！！！

キアラ：実は僕たちの中で船を扱える人がいないのですよ、お嬢様はセレナ様の船を受け継がれたものの、船の知識はちんぷんかんぷんですし、ルードリルさんはセレナ様の代からいらしたそうです。がずつと雑用してらしたそう。で船の操縦をされたことありませんし、ミューさんは去年はいつてこられたばかりですし、僕はただの

メイドなのですよ　にぱー

セリナ：ちょ、余計な事言わないでよっ！！！！（言ってくれてありがとう！！）

ルードルフ：（何故にリカちゃん！？ってか俺はルードルフだって・
・・・）

エル：・・・・・で、オレに何を求めていたんだ・・・・？

セリナ：べ、別にあんたなんかにも求めてないわよっ！！（仲間になって欲しいなあ・・・でもあ！！！！！！）
ミュー：仲間になって欲しいそうです。

セリナ：ちょ、ちょっと何勝手なこと言ってるのよ！！？？

エル：・・・・・。（ツンデレってやつか・・・でもなんかちょっと違うな。なんか・・・あんま自然じゃねーし。・・・憧れてる程度か？）

セリナ：なっ、なによ？さっきから何人の顔ジロジロ見てるのよ？
（怒っているのかなあ・・・？）

エル：（絶対そうだな。）・・・わかった。仲間になってやる。

セリナ：え！？本当！！？？

エル：ああ。だが、まだこっちの仕事が終わってない。だから終わるまで待っててくれるか？

キアラ：その点は心配ないですよ　だって僕たち船を買うために

しばらく陸で金を集めていますから

エル：………は？海賊のくせに船も持っていないのか！？

セリナ：持ってたわよ！！持ってたけど……母さんが死んであたしが船長になったとき、団員もお金も少なくてろくに何もできなかったのよ。だからどうせ使えない船だから売ったの。でも大丈夫よっ！今は船を扱えるあんたもいるし、金を集めて絶対に取り返してみせるわっ！！

エル：……そうか。なら、金集めながら団員も集めとけ。さつきも言った通り、オレは少しぐらいしか扱えない。だからもつとちゃんと扱える奴も仲間にしとけよ。

セリナ：わっ、わかったわっ！……別にあんたの言うこと聞いたわけじゃないからねっ！！

エル：はいはい。（めんどくせーな）

ルードルフ：まーでもこれで俺も晴れて唯一の男性じゃなくなったわけだ。

エル：……は？なんで？

ルードルフ：なんでって……お前が仲間になったからだよ。

エル：……言つとくがオレ、男じゃねーぞ……

はあ！？↑エル以外全員

エル：…ああ、仮面をつけていたからわかんなかったか？じゃあはずすよ。

カパ↑仮面を外す音

エル：これでどうだ？

セリナ：どうだって言われても……

ルードルフ：全然女に見えない…

ミュー：男にしか見えませんね。

キアラ：僕の弟より男っぽいのですよ。

エル：…そんなに男にしか見えない？

うん↑エル以外全員

エル：そうか……（すげーショック…）

セリナ：だいたい一人称が“オレ”なんだから男と思うのが普通でしょ？

エル：それもそうだが……（オレに女としての色気はなかったのか…）

ミュー：そんなに気を落とさなくてもいいですよ。マントで体のラインが見えないせいかもしれせん。

エル：そうなのか？…（顔は完全に男ということか……）

キアラ：だいたい成長期なんですから少し男の子っぽいのは当たり前なのかもしれませんわよ？

エル：え……（成長期って顔関係あったか？…）

ルードルフ：ま…あ、気にするな！世の中には女みたいな男もいるらしいからよ！
それよりはマシだろ？

エル：まあ…それは…。

セリナ：とつ、とにかくあたし達は町にいてるからあんたも仕事が終わったらとつと来なさいよねっ！！

エル：ん？ああ、わかった。

つてことで一人仲間が増えたセリナ海賊団でした

— 続く —

> i 1 6 8 0 8 — 1 9 5 4 <

エル。13歳。

なんだか男の子みたいな女の子。一応忍者らしい。

セリナ達と出会って初めて自分が男顔だということを知った。

- 第3賊 -

こうして町へ向かっているセレナ海賊団一行ですが、ここでちょっと過去に戻ってみますぞっ！

*

2年前、だんな様、つまり僕はセリナお嬢様のお父様に仕えていましたわ。

もちろん今でも仕えているつもりですわよ。しかし、だんな様にお嬢様のことを頼まれて僕はお屋敷をしばし離れることになったのです。

あなたはあの日、出発の日、心配そうな瞳で僕を見つめてくれましたよね。

あなたは何も言わない子だったけど姉の僕にはわかっていましたわ。だってあなたは僕の弟なのだから。

僕の可愛くて・・・憎いレン・・・

事の始まりは3年前のことでしたわ。

レン：姉様ー！姉様ー！どこにいますかー！！

キアラ：どうしたのレン？そんな大声をだして？

レン：ああよかった！実は姉様に頼みたいことが！

キアラ：また？あなたまだ慣れていないの？

レン：はい…：すいません…

キアラ：もう…。仕方がない子ね。でもいつまでも僕に頼ってばかりいていたらだめよ。
あなたもいずれ自立をしなければならぬのだから…。

レン：……：はい。

キアラ：わかったらいいのです。で、頼みたいことは？

レン：あ、はい！あれなんです…

レンは僕より一つ下の弟でどんな様の執事で仮面をつけていてマントを羽織っていましたわ。あの子は僕の前でも仮面やマントを外すことはなかったからどんな顔をしているのか、誰も知らなかったのです。

あの日、までは…

あの日、僕はレンの部屋に訪れましたわ。

コンコン

キアラ：レン、入りますよー。

レン：ね、姉様！？ちょ、ちょっと待ってください！！

キアラ：どうしてです？僕が入ったら何かまずいものでも？とにかく入りますよ。

レン：え！？ちょ、ま…

ガチャ

キアラ：……レン？

そこにいたのは仮面を外したレンでした。でもすぐにはわからなかったのです。

だって、素顔のレンはまるで女の子のように可愛かったのですから……。

キアラ：レン……よね？

レン：……はい……。

キアラ：……なんで……なんで……

別に12の弟が女顔でも構わなかったのです。むしろ、僕の弟なのだから可愛い女の子のような顔の方が僕はよかったです。僕が気に入らなかったのは……もっと……別の……もっと、大事な……

キアラ：なんで！なんで僕より可愛い顔をしているのですか……
……！！

と、いうことです。この時はレンもびっくりしていました。その時の顔がさらに可愛くてさらに頭に血が昇ったのです。

レン：え……？ねえさ……なん……

キアラ：僕より睫長いし……！！僕より肌の色白いし……！！！！

レン：いえ…それはきのせいでは…

キアラ：たしかに僕たち母は違うし、あなたはハーフだけど、
だけ
どおーーーーー！！

もう完全に我を忘れていました。今思うとちょっとやりすぎました
ね。

キアラ：なあーーーーーんで！！兄弟でこんなに違うのですうー
ーーーーー！！？？

レン：わ、私だってこんな顔に生まれなくなかったですよぉ！！だ
から仮面をつけていたんですよーーーーー！！

キアラ：そうでしょうね、ええそうでしょう！！でもね、でもね！
！！

童顔な僕がよりもよって弟に可愛さで負けるほどいやなことはな
いわよーーーー！！

だからね！！これから絶対！！人の前で仮面を外すなあーーーー
！！！！！！！！！！

レン：そんなのわかってます！！！！いままでも私は…

キアラ：その顔で“私”とかいうなああああ！！！！！！！！！！

バコーーーー

ーン！！！！！！！！！！

*

キアラ：…ということがありまして♪

ルードルフ：ふーん（レンどんまいw）

キアラ：にしても、あの時気絶したのは失敗でしたわね。そのせいであなたにレンの顔を見られてしまったので。

ルードルフ：まーっつてもあん時は顔が腫れていてよくわからなかったがな。

キアラ：ウフフフ♪それはよかったですわっ！ではこの事はくれぐれも内密ですよ♪

ルードルフ：はいはい。

キアラ：言ったら殺しますから

ルードルフ：…はい…

ミュー：キアラさん、ルードリルそろそろ行きますよー！ー！ー！

セリナ：もたもたしていたら置いて行くからねっ！！

キアラ：はい♪では行きましょつかルードリルさんっ！

ルードルフ：ああ…（ルードリルじゃないって文句言いたいが言ったら殺されそうだから黙っておこう・・・）

一息ついたところで再び歩き始めたセリナ海賊団一行でした♪

続く -

*今回は一部おかしい表現をしている所があるかもしれませんがどうか気にしないでくださいww

>i16809—1954<

レン。15歳。キアラの弟。セリナの父親の家で執事をやっている。仮面は女顔を隠すためにつけているよう。

実際どんな顔なのかは運がよければ見れるかもしれない。

- 第4賊 -

長い長い時間をかけて、ようやく町にたどり着いたセレナ海賊団一行でした！

ルードルフ：ここがカリアン町・・・

キアラ：広いですうー！

セリナ：けっこうさかえているのね・・・

ミュー：私の村より大きい・・・

キアラ：どんな様のお屋敷といい勝負ですわっ！

ミュー：そんなに船長の家って広いのですか？

キアラ：はい！だってお嬢様ですものっ！

ルードルフ：確かにあの家はデカいよな・・・

ミュー：そうなんですか。船長、一度行かせてもらってもいいですか？

セリナ：別にいいけどたいしたものなんてないわよ。ムダに広いだけ。

ミュー：それでも金持ちなんでしょう？私は・・・貧乏だから・・・

セリナ：家が金持ちとか貧乏とか関係ないわよ！今は皆同じ仲間なんだからっ！！

ミュー：……！！……ありがとうございます。

セリナ：べ、別にそんなつもりで言ったんじゃないからねっ！！

ミュー：はい。（でも船長の座はいずれ必ずもらいますよ……）

ルードルフ：（でも貧乏ならあの大量の武器はどこから……）

ミュー：盗品です。

ルードルフ：ええ！！！？？

セリナ：もうこんな話はいいわよ！！それよりあたし達を雇ってくれる人の家を探すわよ！！

キアラ：……本当に働くのですかあ？だんな様に言ったほうが……

セリナ：パ……父さんには頼らないって決めたの！！だから早く探すわよっ！

キアラ：でも……

セリナ：やるったらやるのよ！！船長のいうことは絶対よっ！！！！

ルードルフ：……船長って本当は働いてみたいだけなんじゃねえの？

セリナ：な・・・！？

ミュー：その可能性はありますね。船長、ここにきてからずっとソワソワしていますから。

セリナ：え！？ちょ、違・・・

キアラ：なあゝんだそういうことですかっ！では仕方ありませんわっ！

セリナ：ち、違うつて言ってるでしょっ！！勝手に勘違いしないでよっ！！

（そりゃ確かに少しは楽しみにしているけどっ！！）

ルードルフ：はいはい。で、確か黒い看板が目印って言ってたよな？

ミュー：はい。・・・でも見当たりませんね。

キアラ：ちよつと町の人に聞いてみましょう！ すいませーん！

町人：ああ？なんだい？

キアラ：あの、この町で黒い看板が立っている家ってわかりますか？

町人：ああ、それは私んちだよ。もしかしてあんたらバイト希望者かい？

セリナ：え、ええそうよ！港で貼り紙を見てわざわざこんなところまで来てあげたのよっ！

かつ、感謝しなさいよねっ！！

ルードルフ：（なぜ上から目線！？）

デルタ：そうかい。そいつはご苦労だったね。今から家に案内するよ。その前に名でも名乗っておこうか。私はデルタ。よろしく。

セリナ：あつ、あたしはセリナよ。で、そっちの男はルードルフ。子供はミュー。んで、メイドはキアラよ。し、しばらく世話になるわよっ！

デルタ：ん？セリナ？どこかで聞いたような・・・

セリナ：え？

デルタ：何でもないよ。さて、話は歩きながらするでしょうかね。私の家は少々遠いからさ。

キアラ：そんなに遠いのですか？

デルタ：ああ。なんせこの町はムダに広いからさ。の割には食い物はここしか売ってなくてね。まったく、不便な町だよ。

セリナ：確かにそれは不便ね。あたしの家もムダに広いからよくわかるわ。

→前列で話している人ら ←後列でヒソヒソと話している人ら（笑）

ルードルフ：・・・なあ、

ミュー：・・・なんです？ルードリル

ルードルフ：... いやだから俺はルードリルじゃな・・・ いや、そんなことよりあのデルタって人、いい女だと思わねえか？

ミュー：でましたね。ドリルの年増好きが。

ルードルフ：いや・・・ そんなんじゃないよ・・・ ただ俺はロリコンじゃないだけで・・・

ミュー：でもあの人、どうみても30代じゃないですか。それにあなたが一目で惚れ込んだセレナ様もあなたより10歳以上年上って言うてないですか。

ルードルフ：いや・・・ 一目で惚れ込んだとまでは言うてねーよ... それにセレナ様は俺の尊敬する大先輩だ。・・・ 海賊になる前からのな。

ミュー：・・・ でも・・・ 好きだったんでしょ？

ルードルフ：まあ・・・ そりゃあ・・・ ははは・・・

ミュー：..... やっぱ年増好きだ.....

ルードルフ：だから違うつてー！つか、せめて年上好きっていいかないか！？

ミュー：どっちでも同じことですよこの愚か者が・・・

ルードルフ：ええ！！？？

セリナ：ちょっと二人とも遅いわー！！早く来ないと置いていくわよー！！べっ、別にあんた達のが心配で言ったんじゃないんだからねっー！！

ルードルフ：はいはい！！今行きまーす！！…ほら、行くぜ。

ミュー：……ドリル、船長のこと、どう思っています？

ルードルフ：船長は船長でセリナ様の娘だろ？っーか、だから俺はドリルじゃな……

ミュー：分かってない…本当に何もわかってませんねあなたは。いいますか？我々の中で男はあなたしかいないのですよ！？

ルードルフ：はあ？何言っただよお前？こんな恋愛シュミレーションみたいな環境だからって恋愛シュミレーションみたいな流れになるわけないだろうが。

ミュー：な…っ…そ、そんなの可能性の一つとしては……

ルードルフ：ないない。お前は1年前入ったばかりだからわかんねーだろうが俺はあいつらのことを昔から知ってる。船長は今と違って…いや、多分今も素直だが分かりやすい子なんだよ。だから俺に気はないってわかる。仲間としてしたってくれているがな。キアラも確実に俺に好意など持っていない。……殺意なら持っているかもしれないが……

ミュー：で、でもそれでは私は……。

ルードルフ：お前のことは確かによくわかってねえ。だがな、普通に考えたらしらばにお前が俺に好意を持っていたてもガキの感情なんざだいたい一時のものに過ぎねえんだよ。

ミュー：！！……本当にみんな…何もわかっていない…姿形に騙されて…

ルードルフ：？どうした？まさか本当に俺に好意を持っていたんじゃない？

ミュー：まさか。そんなわけないでしょう。さあ、早く行きましよう。

ルードルフ：ああ！

*

デルタ：さあ着いたよ。ここが私の家だ。

セリナ：……え？

キアラ：ここで……働くのですか？

ミュー：嘘でしょ？こんな所に住むどころか、入ることすら無理ですよ。

ルードルフ：これはどうみても犬小屋だろ……

デルタ：ああ。これは犬小屋さ。

一同：へ？

デルタ：私の家はこの森のすべてだ。この小屋は看板みたいなものだよ。

ルードルフ：ああ・・・なるほど・・・

キアラ：それで、僕たちはここで何をしたらいいのです？

デルタ：フツ、よく聞いてくれたね。あんたたち、セレナ海賊団だろ？

セリナ：なっ・・・！？なんでそれを・・・

デルタ：思い出したのさ。あんたの名前でね。セリナ・・・あんた、セレナの娘だろ？そしてあのオッさんの・・・

セリナ：！！・・・オッさん・・・オッさんってパパのこと！？あなたパパの事も知ってるの！？

デルタ：さあね。ここで働けばそのうちわかるよ。

セリナ：今すぐやらせて！！あたしは何をすればいいの！？

デルタ：ククツ・・・魔物退治だ。

セリナ：！！？

デルタ：ライラの森に住むアイルーの首を持ってきな！

— 続く —

* ちなみにモンハンにいるネコっ！な感じことではありません。

> i 1 6 8 2 6
— 1 9 5 4
<

- 第5賊 -

セリナ：アイルーの首ですって！！？

デルタ：ああ、そうだ。

ルードルフ：アイルーといやあ・・・あの凶暴な魔獣じゃねーかよ！！
あんな奴俺達で殺せってか！？

デルタ：まあ、そういうことになるね。

キアラ：そんなの無理ですわ！！ハンターとしての腕なんてこれっぽっちも持っていないもん！！

ミュー：人の暗殺ならともかく魔物は・・・

デルタ：ククク・・・でもセレナの奴はできたよ。しかもたった一人で。

セリナ：！！？母さんもここで働いていたの！！？

デルタ：ああ。あいつもあんたらと同じように船買つための金集めに來ていたよ。

セリナ：！！・・・母さんも・・・？

デルタ：で、どうするんだい？やるの？

セリナ：・・・やるわ。

ルードルフ：船長！！

キアラ：危険すぎますわっ！！

セリナ：それでも・・・母さんがやったならやるしかないわ。それに、あたしの場合皆がいる。だから怖くないわ。

ミュー：船長・・・。

セリナ：べっ、別にあんたたちを頼りにしているんじゃないんだからねっ！！

キアラ：・・・わかりましたわ。

ルードルフ：しゃーねえな・・・！

デルタ：決まったようだね。じゃ、行きは私が特別に送ってやるよ。地図をやるから帰りは自分らで帰ってきなっ！

セリナ：わっ、わかったわ。

こうしてライラの森に向かったのですたゝ

*

デルタ：さあ、着いたよ。あとは自分らでなんとかしなよ！

セリナ：わっ、わかってるわよっ！！

ルードルフ：にしてもここ、アイルーがいるんだからもつと荒れて
ると思ったけど、そんなことないな。

デルタ：まあ、ここのアイルーは少し変わっているからね……。
とりあえず私は帰るよ。またあとでな！

キアラ：また後でって……。生きて帰れるかわかりませんのに……。

ミュー：まあ、なんとかなるでしょう。

ルードルフ：いや なんねーよ……。；；

セリナ：とにかくっ！奥に進むわよっ！！

ルードルフ：はあ……。。

キアラ：……。。

ミュー：……。。

ルードルフ：……。。

セリナ：……。なっ、なんか話さないよっ！こっ、怖いとか、別
にそんなんじゃないけどっ！！

ルードルフ：何か話せって言われても……。

キアラ：何も、思いつかないですわ……。。

セリナ：・・・そう・・・よね・・・。

ミュー：！しっ！皆さん静かに。

セリナ：！！・・・どうしたのよ？

ミュー：・・・いました。多分あれです。

それはとっても大きな動物でした。頭に一本の大きな角、両耳に生えた角、大きさはイヤンクックくらい。それはどうみても魔獣アイルーでした。

セリナ：・・・！！あんなのと闘えっていうの！？無理よ！！第一こっちは武器すら持ってな・・・

ミュー：落ち着いて下さい船長。武器ならあります。それにやるといったのは船長ですよ。

セリナ：！・・・そうね。ここまで来たらやるしかないわっ！！

ルードルフ：でもどうするんだよ船長？俺らは戦いに関してはまったくの素人だぜ？

キアラ：そうですね！あんなのポケ村のハンターさんにでも頼らないと倒せっこないですわ！！

セリナ：そんなの呼べないしそれにこれはあたしたちの仕事よ・・・
・大丈夫、母さんだってできたんだから・・・。ミュー、武器貸して。

ミュー：はい。魔物相手に効くか分かりませんが毒付きです。

セリナ：・・・ありがとう。じゃ、行くわよっ！やああああああ
！！

アイルー：！？

ザッ！

ルードルフ：やったか！？

アイルー：グギヤアアアア！！・・・小娘め、よくもやってくれた
な！！

ミュー：チツ、やはり毒は効かないようですね。

キアラ：お嬢様っ！僕も加勢しますわっ！！

セリナ：下がってなさい！！こいつはあたし一人でやるわっ！！

ルードルフ：！？だめだ危険すぎる！！

セリナ：・・・それでも・・・あたしは・・・やるったらやるのよ
っ！！

アイルー：貴様…オリに何用だ？

セリナ：あっ、あんたの首をもらいにきたのよっ！！だから覚悟し
なさいよねっ！！！！！！

アイルー：オリの首だと？・・・まあいい。こちらとて首をやるわけにはいかん。欲しくば力づくでとるがいいっ！！

セリナ：初めからそのつもりよっ！！　　はあ！

アイルー：グオギヤアアア！！！！

キアラ：・・・お嬢さま、大丈夫でしょうか？

ルードルフ：大丈夫なわけないが・・・こうなったら見守るしかないだろう。

ミュー：・・・大丈夫ですよ。船長は殺されないと思います。

ルードルフ：どうしてそう思うんだ？船長があんあのに敵うわけねえだろ！？

ミュー：・・・あのアイルー、何か変なんです。言葉もわかるようですし・・・それに、あまり殺意が見られない。

ルードルフ：え？そうか？？

ミュー：まあ、ルードリルにはわからないでしょうね。でも私はわかるんです。そういう家業でしたから・・・。

キアラ：でも確かにイメージとちよつと違いますよね。さつきからお嬢さまの攻撃を避けているだけで反撃しませんし。

ルードルフ：あ、本当だ。・・・こりゃあひよつとすると...

セリナ：ハーハー・・・な、なんでさっきから反撃してこないのよ！？

アイルー：オ、オリは...お前を殺す気が、ない、だからだ。

セリナ：はあ！？なつ、何わけわかない事言っているのよ！？あんな魔獣でしょ！？

アイルー：・・・まあそうだが。とにかくお互い次で最後だ。次こそ決着の時、では参る！

セリナ：望むところよっ！！ハアアアアアアアア！！！！

アイルー：ぬおおおおおおお！！！！！！

????：やめて！！

ピタ。

セリナ：なつ、なに！？

アイルー：ルシュファア...今来ては...

ルシュファア：もうやめて下さい。これ以上の争いは無意味です。あなた方はデルタの依頼でここへ来たのでしょ？

セリナ：そうよっ！だからあたしはアイルーの首を持ち帰らなければ

ばならないの！！だから邪魔しないでっ！！

ルシュファア：そのアイルーはこの子のことじゃないです！

ルードルフ：！？なんだって！！？

ミュー：やはりそうでしたか。話ではかなりの凶暴だと聞いていましたから。どうもおかしいと思ったんです。

キアラ：でもどういうことですか？ここには他にそれらしき魔物はいませんわよ？

ルシュファア：あなた方は“あいるーのくびをもってこい”と言われたのでしょうか？

セリナ：ええ、そうよ。

ルシュファア：だったらそれは“アイルーの首”ではなく、おそらく“あいるーのくび哀流乃紅火”、つまりこの紅い花のことです。

セリナ：・・・・・・・・・・は？

ルードルフ：・・・・・・・・つまり俺たちは・・

キアラ：デルタさんに・・

ミュー：からかわれた。という事ですね？

ルシュファア：はい。

.....。

セリナ： あの 年増女ああああ！！！！

ルードルフ：完全にやられたって感じたな・・・

キアラ：ウフフフ・・・

ミュー：ところで、あなたは本当にあのアイルーなんですか？

アイルー：それは本当だ。でもオリは仲間の中でも変わり者でな……。言葉も話せて、その上鳥すらも捕まえられないほど貧弱なんだ・・・

ルシュファア：なので、私がこの子のお世話をしているのです。

キアラ：そうでしたんですか。そういえばデルタさんが“このアイルーは少し変わってる”とか言っていたような気がしますわっ！

ルードルフ：少しどころじゃねーよまったく・・・

セリナ：本当に…まあ、いいわ。ねえ、その花貰えないかしら？

ルシュファア：もちろんです。はい、どうぞ。

セリナ：ありがとう。

キアラ：これで無事仕事が終わりましたわねっ！あとは帰るだけですわっ！！

セリナ：そうね。じゃ、もう帰りましょ。無駄に疲れたわ。

ルシュファア：お気をつけて・・・。

アイルー：次はあの女にからかわれないようになっ！

こうして無事初めての仕事を終えたセレナ海賊団でした！

- 続く -

> i 1 6 8 2 7
— 1 9 5 4 <

> i 1 6 8 2 8
— 1 9 5 4 <

- 第5賊 - (後書き)

モンハンのパクリじゃないよw
w

- 第6賊 -

なんとか自力で森からカリアン町に帰ってこれたセレナ海賊団一行でした。

デルタ：ククッ、お帰り。どうやらちゃんと例の物は持ってきたようだね。

セリナ：あんたねー！！よくもあたし達を騙してくれたわね！！おかげでこっちはムダにボロボロよっ！！

デルタ：クククッ、騙される方が悪いのさ。私はちゃんと“あいるーのくび”って言ったよ。

セリナ：ややこしいのよ！ちゃんとわかるように言いなさいよねっ！！

デルタ：騙すためにわざと“あいるーのくび哀流乃紅火”の方で言ったんだからややこしくて当然だよ？クククッ

セリナ：はあ！？なんですって！！

ミュー：まーまー。

ルードルフ：落ち着こうぜ船長。

キアラ：そうですね。まずは報酬金を貰いましょうっ！

セリナ：そっ、それもそうね。はっ、早くお金を渡しなさいっ！！

デルタ：はいはい。ほら、これが報酬だよ！

10万Gを手に入れた！

セリナ：こ、こんなに？

デルタ：報酬自体は1万くらいだよ。他は私からのプレゼントだ。今回は私に騙されて頑張ってくれたからね。

ミュー：よかったですね船長。

ルードルフ：無駄にならなかったな！

セリナ：あ．．．ありがとう。べつ、別に感謝なんて．．．なんて．．．そつ、そんなにしないからねっ！！

デルタ：ハハッ、どういたしまして。さて、帰ってきて早々で悪いがまた仕事に行ってくれるかい？

セリナ：．．．．．今度は何よ？

デルタ：魔物退治。

セリナ：とかいってまた騙すんじゃないでしょうね？

デルタ：安心しなっ！今回は真正銘の魔物退治だよ。それにハンターもつけてある。

ルードルフ：ハンター？誰だそいつ。

デルタ：港から来たときに会っているはずだよ。

セリナ：！！まさかエル！？

デルタ：ああ、そうさ。

ミュー：え、しかし彼・・・いえ彼女は忍者ではないのですか？

デルタ：いや、あいつは家柄が忍者だというだけで本業はハンターなんだよ。

ルードルフ：ん？ていうことはあいつの依頼主ってデルタさん、あんただったってことか！？

デルタ：いや気付くの遅くないかい？

ルードルフ：うつ・・・

キアラ：でも何故デルタさんはハンターであるエルさんにあんな依頼をしたのです？

デルタ：ククツ・・・まあこの仕事をすればわかることだよククツ・
・

セリナ：・・・また騙したら許さないからねっ！！

デルタ：だから安心しなつて！今回はからかつてる余裕がないんだ。危なくなったら私らだけでやるから安心しなよ。

セリナ：……あなたも行くの？

デルタ：ああ。今回ばかりは私の問題でもあるからね。だから協力しておくれよ。

セリナ：……そこまで言うなら……。分かった。協力してあげるわよっ！だからその場所まで案内しなさいよねっ！！

デルタ：ああ！恩に着るよ！

*

セリナ：……ってここ、エルと会った所じゃないっ！

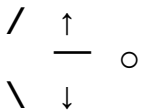
ルードルフ：でもエルはいないみたいだな。

デルタ：あいつのことだから先に行ったんだろうねー。

あーあ、また無茶して……。

ミュー：ところで、その魔物というのは？

デルタ：多分知らないと思うけど“ラストナーク”って魔物だよ。ほら、こんな感じのやつだ。



セリナ：いやいや……全然わかんない

ルードルフ：なんだコレ・・・無理矢理すぎるだろ・・・。

デルタ：すまないね・・・。祖父^{じい}さん、極端に絵が下手で…。

ミュー：祖父さん？

デルタ：ああ。私の祖父。・・・一年前、“ラストナーク”に殺されたんだ・・・。

キアラ：それで…敵討ちというわけですか・・・。

デルタ：・・・ああ。

セリナ：・・・で、その“ラストナーク”はどこにいるのよ？

デルタ：この辺りだと思うのだがね、まあいい、まずはエルを探そう。

ミュー：なら二手に分かれて探しましょう。その方が早いです。

セリナ：そうね。じゃああたしとキアラとミューであつちを探すわ。だからドリルとデルタさんでそつちを探して！

ルードルフ：え・・・船長、俺ルードルフ・・・

セリナ：うるさいっ！！口答えしないっ！！

ルードルフ：・・・はい・・・すいません・・・――

デルタ：では見つかったとしても見つからなくても30分後にはここで集まろう！

セリナ：ええわかったわ！じゃあ行くわよ二人ともっ！！

キアラ：……………お嬢さま。

ミュー：……………船長。

セリナ：……………何よ？

キアラ：この森……確か、ミューさんが切り倒していましたたわよね？

セリナ：……………そういえばそうね。それがどうしたというのよ？

ミュー：変だと思いません？

セリナ：だから何が……………

ミュー：私の切った木すべてが元に戻っているのですよ？

セリナ：……………そっ、それは！あつ、あんたがあの時言ってたように木にやる気があったんじゃないの！？

ミュー：……………にしても早すぎです。

キアラ：．．．．．お嬢さま、これは．．．

セリナ：きつ、気のせいよっ！！この木が何か変わってるとか．．．
ぜっ、全然そんなじゃないわよっ！！

キアラ：．．．．．お嬢さま．．．でも後ろ．．．

セリナ：え！？なっ、なな何よっ！？べっ、別にここ怖くなんか．．
．ないんだから！！

ミュー：落ち着いてください船長！本当に変ですよこの木。ちょっとよけて歩いた方がいいです。

セリナ：．．．．．ね、ねえ、あの木．．．他の木と違う形じゃない？

キアラ：言われてみれば．．．そうですね。

ミュー：．．．．．。ちょっと切ってみましょう。少し離れて下さい。

ザッ！

木：ぐわあああああああああ！！！！

ミュー：やっぱり！

セリナ：な、何！？何なの！？

ミュー：多分これがデルタさんの言ってた“ラストナーク”です！

セリナ：うそ！？この木が！？

キアラ：に、逃げましょう！！今はエルさんを探す事が先ですわっ
！！

ミュー：しかし・・・そう簡単に逃げられるかどうか・・・

セリナ：と、とにかく逃げるわよっ！！

ラストナーク：ぐがああああ！！

キアラ：きゃあー！！

セリナ：キアラっ！！

キアラ：だ・・・大丈夫ですわ・・・しかし、火まで吹いてくるんですわね・・・。

ミュー：おまけに歩けるようです。

セリナ：なっ、なんであなたはそんな冷静でいられるのよっ！？あ
ー！！もうー！！一体なんなのよー！！！！キヤアアアアアアア！
！！

デルタ：ん？今何か悲鳴が聞こえなかったか？

ルードルフ：え．．．ま、まさか船長たちに何か！？

デルタ：．．．うーん。もしや“ラストナーク”に遭遇したのか？
だとしたら早くエルを見つけ出さないと．．．。

ルードルフ：その前に助けに行くべきでしょう！．．．いくらミューがいるといっても魔物相手じゃ．．．

デルタ：いや．．．私らが行ってもむしろ危険が増えるだけだ．．．
・奴を倒せるのはハンターだけだからな。

ルードルフ：え．．．？それってどういう．．．

デルタ：とにかく早くエルを探すよドリル君！

ルードルフ：え．．．あ．．．はい．．．（だからルードルフなんだ
が．．．）

デルタ：しかし、エルの奴、本当にどこにいったんだい？もつと
奥か？

???：オレはここだ。

ルードルフ：ん？この声．．．

デルタ：エル！！あんた何してたんだい。ほら、“ラストナーク”
は向こうだよ！

エル：ん？ああそうだな。

デルタ：そうだなじゃないよまったく・・・ほら！早く行くよ！

エル：ああ。わかってる。・・・今・・・逝かせる・・・！

ルードルフ：お前！？デ、デルタさん危ない！！

バツ！

デルタ：え・・・？

エル：もう遅い！！！！！！

ザッ！！

ブシャ

アアアアアアア

- 続く -

どっちが刺されたのかはお楽しみに ドリルだっ たらいいね w

ドリル：おい！！

- 第6賊 - (後書き)

ラストナークを文字で表すのはさすがに無理があつた(^^;;
反省します。

- 第7賊 -

デルタ：ドリル君っ！！

ルードリル：くっ・・・（だから俺はルードリルじゃな…）

エル：あーあ、外しちゃったよー。

どうやらエルさんの武器はドリルさんの右腕に刺さったようです。
チーどうせなら心臓に刺さればよかったのにー（、3、）

ルードリル：→なんか酷いこといつてねーか！？

デルタ：（無視）ってかあんた、エルじゃないね！！

エル：うん！。オイラはエルじゃないよー。・・・私は…

・
スウ・・・

クライダーマ：解身^{けしん}クライダーマ。

デルタ：解身クライダーマ！？お前まさか、あの！？

クライダーマ：そうです私こそがクライダーマ

どこにでもいてどこにもいない存在クライダーマ

存在して存在しないクライダーマ

誰にでもなれて誰にもなれないクライダー

マ・・・

真実と偽りに作られたクライダーマ

今日もあなたに化けている・・・ シシッ♪

デルタ：あんたが私に何の用だい！！エルはどこだ！！

クライダーマ：おおっと！オイラの歌は無視かよシシッ♪まあいいや、別にあんたに用があるわけじゃないよ♪ちよっと刺してみたかっただけw

ルードリル：ふ、ふざけるな！！人を・・・人間をなんだと思ってる！！

クライダーマ：人間？うーん・・・考えたことないなあ・・・。まっ！また今度歌にしとくよ！

ルードリル：なっ・・・！

デルタ：！！まさかあんた・・・エルも刺したんじゃないだろうね！？

クライダーマ：うん♪刺した

デルタ：！！お前・・・！

クライダーマ：そんな怖い顔しなくてもいいよ♪さっきも外しちゃったからまだ生きているよw

デルタ：どこにいる！！

クライダーマ：さーあねっ！シシッ♪

スツ
・
・
・

ルードリル：消えた・・・？

デルタ……とにかくエルを探すよ！！あの子らが危ない！！

ルードリル：あ……はい！！

セリナ：キャア――！！！！！！

ラストナーク・グギアアアアアアアア！！！！

セリナ：ちよつと……あいつどこまで追いかけてくる気なのよ！？

キアラ：なんだか怒っているようですわ・・・

ミュー：私が切ったから怒っているのでしょう。

セリナ：あんたのせいじゃない！！責任とってあんたがなんとかしなさいよっ！！

ミュー：だからそんなこといわれても無理ですって……

ラストナーク…ぎよあアアアアアアアアアア！！！！！！

キアラ：まっ、また火を吹いてきますわっ！！！！

ミュー：今度ばかりは避けられそうにないですね。

セリナ：何冷静に言ってるのよ！？あたしこんな所で焼け死ぬなんて嫌よっ！！え．．あ．．もう．．

誰か助けなさいよ————！！！！！！！！！！

ザッ！

ラストナーク：ぎゃあああああああ！！！！！！

ピシ・

．．バターン

セリナ：！？なに！？

????：おい大丈夫か．．．ってお前ら．．．

セリナ：エルっ！！

エル：お前ら．．．なんでこんなところにいるんだ？

キアラ：あなたを探しに来たのですよ。

エル：オレを？なんで．．．

ミュー：デルタさんがハンターのあなたが必要って．．．

エル：デルタ？．．．そうかお前らもあそこで働いていたのか．．．

ガシッ

エル：えっ・・・おい・・・

セリナ：心配なんて・・・してないんだから・・・

エル：・・・ああ。

セリナ：・・・泣いてなんか・・・いないんだから・・・

エル：・・・すまなかった。

セリナ：・・・なんであんたが謝るのよ・・・別に・・・あたしは・・・少し・・・少し怖かっただけなんだからね・・・！

エル：セリナ・・・すまん・・・これから一緒にいるから・・・

セリナ：エル・・・

ミュー：あーちよつとちよつとー？

キアラ：いいムードになっている所申し訳ありませんがそろそろ行きませんか？

セリナ：べっ、べべべ別にそっ、そんなっ、そんなじゃないわよっ！！

エル：そ、そうだ！オレはただ話を聞いてただけで・・・

キアラ：わかってますわっ♪ちよつとからかってみただけですわw

セリナ：キアラ・・・あんだねえ・・・

キアラ：ウフフフフ ♪ ♪

ミュー：とにかくエルさんも見つかった“ラストナーク”も倒せましたし早く戻りましょう。

セリナ：そっ、そうね！

＊

ルードリル：ん？あれは・・・船長！？

デルタ：エルもいるようだ！どうやら無事見つかったようだね。

セリナ：二人とも遅いわよー！もうラストナークも倒したんだから
ー！！

デルタ：本当か！！それはよかった！・・・ところでエル。

エル：なんだ？

デルタ：あなた・・・クライダーマに会っただろ？

エル：！！どうしてそれを！？

デルタ：私らも会ったのさ。危うく殺されそうになった。

エル：・・・そうか・・・。

ルードリル：なあ、さっきから思ってたんだが解身クライダーマッて一体何者なんだ？

デルタ：・・・奴は細胞を変化させ、色んな姿に変えることができる人間・・・かな。

ルードリル：あんな奴が人間だと言うのか！？

エル：さあ・・・そればかりは誰にもわからねえだろうな。奴自身もおそらく・・・。

セリナ：・・・・・・・・・・どういうことよ？

エル：あいつは言わば捨てられた子どもなのさ。なんでこんなところにいるか、自分は何をしているのだかが分からないんだよ。

ルードリル：・・・だからあいつ訳もなく刺してきたのか・・・。

キアラ：ドリルさんも刺されたんですね。（ぷっだっさーいww）

ルードリル：（・・・今、なんか笑われた？）

デルタ：とにかく奴に会ったら戦ったらだめだよ。基本なにもしなければたいしたことはしてこないからね。

ミュー：・・・そうとも限りませんよ。

セリナ：ミュー？

ミュー：……あの子は……本能的に“敵”だと感じたら容赦しない……。私も……。いえ、なんでもありません。

キアラ：どうしたのですミューさん？ 顔色が悪いようですわよ？

ミュー：いえ……。本当に何でもありませんよ……。

セリナ：……。別に無理に話せて訳じゃないけど何かあったらあたし達に話さないよねっ！ っ、嫌ならいいけど！

ミュー：……。クス、ありがとうございます。船長も何かあったら話してくださいね。

セリナ：あつ、あたしは別に何も無いわよっ！ でも……。もっ、もしあったら……。その時は……。頼むわ……。

キアラ：うфффф ♪お嬢さま可愛いですわw

セリナ：え！？ ちよっ何言ってるのよっ！？

キアラ：ウфффф ♪

ミュー：船長慌てすぎですよw

ドリル：……。ハハ……。（もういいや……。名前なんて……）

デルタ：さ、いつまでこんな所でおしゃべりする気だい？ もう仕事も終わったことだしそろそろ帰るよ！

セリナ：わっ、分かっているわよっ！！

*

デルタ：はい、これが今回の報酬だよ！

50G手に入れた！

セリナ：………ねえ、

デルタ：あ？

セリナ：本当にこんなに貰っていいの？だいたい倒したのエルだし……。

デルタ：エルはもうあんたらの仲間だろ？だったらそれはあんたの物だよ。

セリナ：……ふーん……。

デルタ：ところでセリナの船はいくらするんだい？

セリナ：え……さあ……。あたしが売ったときはある程度の食事とスポンサーを貰ったけど……。

デルタ：スポンサー？誰だいそれ。

セリナ：知らないわよ。なんかうんくさい男だった気がするけど……。

ミュー：たしか“ロック”って男だったと思います。金で表すと1

0億はします。

デルタ：10億ねえ……。ならちようどいいな。

セリナ：？何のことよ？

デルタ：次の仕事の報酬はセレナの船にするよ！

セリナ：なっ！？なんですって！！

ドリル：いいのかよそれで！？

デルタ：ああ。むしろ安いほうだよ。なんせ次の仕事はかなり危険だからね。

ミュー：……。内容は？また魔物退治ですか？

デルタ：ああ。でもいままでのとは比べものにならないよ。G級をやりこなしているハンターでも倒せないほど強い。

セリナ：そっ、そんな奴をあたしたちに……？

ドリル：（つてかこれ、ゲームのネタ使いすぎじゃね？）

ミュー：気にすることないですよドリル。すら犬にとってはいつものことですから。

ドリル：（まあそうだけどさー……。って、え？

ミュー：あなたの考えていることなんて手にとるようにわかります

よ　フッフ・・・

キアラ：ちょっとドリルさん静かにしてもらえませんか？さっきからブツブツうるさいですわ。

セリナ：今大事な話しているんだからねっ！！

ドリル：はい・・・；；；（なんで俺ばっか・・・）

エル：で、その魔物は？

デルタ：そうだねえ・・・アカムトルム、より何倍もデカい奴かな。

ミュー：・・・教えてはくれないのですね・・・。

デルタ：当たり前さ。だってあんたには仕事の前に訓練所にいつてもらったからね。

ドリル：あ・・・そう・・・（確かにいきなり行ったって死ぬだけだもんな・・・）

キアラ：訓練所とはどこにあるのです？

セリナ：まさか、あのクソヒマな教官のとこじゃないでしょうね？

デルタ：流石にそこまでパクらないよ。訓練所は私の旧友でありエルの師匠である人がやっている所、ブルドロンス郷訓練所。

セリナ：・・・え、うそ・・・ブルドロンス郷に行かないといけなの・・・？

エル：ん？どうした？

キアラ：ブルドロンス郷にはお嬢さまのお家があるのですよ♪

デルタ：そうなのかい！ならちようどいいじゃないか！

セリナ：よくないっ！！よくないわよっ！！今帰ったら絶対に嫌味言われる。ぐちぐちと言われて拳げ句の果てに旅やめるとか言われるんだわっ！ああ言われるに違いない、言われるったら言われるうううううう！！！！！！

ミュー：狂い出した、船長を止めて、一瞬で楽にしてあげましょう。

ドッ！

バタ。

ミュー：さ、キアラさんとエルさんは場所知っているのでしょうか？
案内してください。

キアラ：わかりましたわっ！

エル：セリナはオレが持つぜ（こいつ軽いし）

ドリル：……（なんで仕切ってんだ……）

ミュー：では行きましょう。

デルタ：いつてらっしやーいw

ティガレックスなんてやりたくないと思った僕でした。

- つづく -

> i 1 8 5 5 7 — 1 9 5 4 <

解身クライダーマ(？)

どこにでもいてどこにもいない。
誰でもあつて誰でもない。
そんな正体不明な子ども。
歌を作るのが好きなようだ。

- 第7賊 - (後書き)

ちなみに僕はティガレックス以降モンハンをやっておりません。
まじあれ強すぎ;;

でも3rdでは攻略が簡単になったそうですね^^
ならまたやりたいですw

- 第8賊 -

気絶した（させられた）船長を引きずって無事ブルドロンス郷に着いたセラナ海賊団でした」

セラナ：ハッ！こっ、ここはどこっ！？

ドリル：あ、船長。やっと気がついたか。

キアラ：ウフフフ♪お嬢さま♪ここはブルドロンス郷ですわよ♪

セラナ：えっ！？うそ！？

ミュー：本当ですよ船長。その証拠にほら、あの立派な屋敷、あれ、船長の家でしょう？

セラナ：・・・間違いないわ・・・。まさか、もう帰ってくることになるなんて・・・そんな・・・

エル：・・・なんで嬉しくないんだ？久しぶりに帰って来たというのに？

セラナ：嬉しいわけないでしょこのバカっ！！

キアラ：お嬢さまは家出をなされたのですよ♪

セラナ：ちよっ、キアラっ！！余計なこと言わないでよっ！！

ミュー：・・・なぜ、家出なんてしたんです？

セリナ：・・・それは・・・その・・・なっ、なんでもいいじゃないっ!!

キアラ：旦那さまはお嬢さまが海賊の船長になるのに反対だったのですよ。

ドリル：まあ、普通は反対するよな。

セリナ：・・・自分は海賊と結婚したのに反対するなんて・・・おかしくない？

ミュー：知りませんが今からその反対した人のところに行くんですから覚悟してくださいね。

セリナ：はあっ!!? ななっ、なんでっ!!?? 訓練所って所に行くんじゃないの!!? ?

エル：寝泊りはどうするんだ。

セリナ：そっ、それはどっかの宿屋にでも・・・

エル：借りられるだけの金があるならな。

セリナ：うっ・・・

キアラ：いいじゃないですかお嬢さまっ!旦那さまもきつと心配されてらっしゃいますよ。

セリナ：んなわけないでしょっ!!それにもし心配していたとして

もうっとおしいだけよっ!!

ミュー：……ぐだぐだ言っても仕方ないですよ。それとも船長だけここですっと思いますか？

セリナ：……わっ、分かったわよっ!!行けばいいんでしょっ!!?行ってやるわよっ!!

ミュー：なら、行きましょうか。

*

―船長のお屋敷―

セリナ：ああ……本当に帰ってくる日がくるなんて……。これほどまで嫌なことはないわ……。

キアラ：ウフフフ、僕はとっても嬉しいですわっ!……ドリルさん、

ドリル：……わかってるよ……ぜってー俺からは言わないから。

キアラ：うふふふふ、よろしいですわ!

ミュー：?何の話です？

キアラ：なんでもありませんの。こちらの話ですわ!ではそろそろ入りましょうか!

セリナ：えええっ！？？ちよっ、ちよっと待ってよっ！！まっ、まだ心の準備が・・・

ピンポン

セリナ：きゃあっ！！

メイド：はい。

キアラ：僕ですわ、キアラです。お嬢さまが帰って来られたのでお通し下さいませ。

メイド：あ、はい。かしこまりました。少々お待ち下さいませ。

ギイ・・・

メイド多数：お帰りなさいませ、お嬢様っ！

セリナ：あ・・・ああ・・・あ・・・た・・・ただ・・・いま・・・

メイド1：お嬢様、旦那様がお待ちになってます。

メイド2：さあ中へ・・・。

メイド3：どうぞお入りください。

セリナ：うつ・・・うわあああああん！！！！キっ、キアラあゝ！！！！

キアラ：よしよし、僕も一緒ですから大丈夫ですよ♪

ドリル：船長・・・ここに来たら相変わらず気が弱いな・・・

ミュー：ってかここ・・・。広すぎでしょ・・・。

エル：セリナってここまでのお金持ちだったんだな・・・

メイド2：さあ、みなさまどうぞ・・・。

ドリル：はあ・・・俺も正直ここ苦手なんだよなあ・・・。まあ・・・仕方がないが・・・。

ミュー：確かに、居心地が悪いですね・・・。

エル：これからここで住むことになると思うと・・・先が思いやられるな・・・

セリナ：・・・何言ってるのよ、まだここに住むかどうかは決まってるわよ・・・まずはパパを説得させないと・・・。

ミュー：それは船長の仕事でしょ？

セリナ：・・・ったく、あんたはいつも人任せなんだから・・・。

メイド3：着きましたよ。さあどうぞ中へ。

キアラ：お嬢さま、入りましょう。

セリナ：・・・い・・・いや・・・あ・・・あんたから・・・は・・・入っ

て・・・。

キアラ：ふふっ♪仕方がないですね。

コンコン

セリナの父：入ってよいぞ。

キアラ：失礼しますわ。・・・さあ、お嬢さま。

セリナ：ううつ・・・。

カチャ

セリナ：あ・・・あの・・・パパ・・・。

父：よく帰ってきたなセリナ。母さんのような立派な海賊になれたか？

セリナ：え・・・いや・・・。

父：そうか、やはり無理だったか。しかしパパは安心したぞ。やつと諦める気になってくれたのだな。

セリナ：ちっ、違うわよっ！！あつ、あたしは諦めたわけじゃない！！ここに修業するために来たのよっ！！

父：・・・セリナよ。修業とはあのブルドロンス郷訓練所ですか？

セリナ：そっ、そうよっ！！

父：やめておきなさい。お前は女の子なんだ。強くなる必要なんてないのだよ。

セリナ：違うわっ！！あたしは普通の・・・お金持ちの女の子なんかじゃないっ！！あたしは伝説の女海賊セレナの娘セリナよっ！！だから強くならなくてはならないの！！そりゃあ、あたしは母さんのこと何一つ覚えてないわ。あたしが物心つく前に亡くなったんだから。でもねっ！！それだからこそ母の意志を受け継ぎたいのっ！！そして、母セレナがどれだけ偉大な存在だったか知りたいのよ――――！！！！！！！！！！

キアラ：お嬢さま・・・。

ミュー：いや、普通の女の子は金持ちじゃないでしょ。

ドリル：いや言つところそれっ！！??

父：セリナ……。分かった。そこまでいうのなら好きにきなさい。正し、途中で弱音を吐いてはいけないよ。

セリナ：あつ、当たり前よっ！！・・・あ、それとパパ。

父：なんだ？

セリナ：その・・・あたしの仲間もここに泊めてあげて欲しいんだけど・・・。

父：もちろんいいとも。正し・・・

セリナ：正し？

父：ドリル君は外ね。

ドリル：ええ・・・！！！！ ガーン！！

父：君みたいな男を家に泊めるわけにはいかん！・・・でも安心してよいぞ。外って言っても倉になるからベッドもちゃんとある。君が昔使っていた物もな。それに何も家に入るなっていうわけではない。寢床だけは離れてくれということだ。

ドリル：あ・・・そうですか・・・。ありがとうございます・・・。

（外って、昔レンと遊んでた倉のことか・・・）

ミュー：よかったですねドリルさん。

ドリル：あ・・・ああ・・・。

セリナ：まあ、これでなんとかパパを説得できたし、早速訓練所に行くわよっ！

こうして訓練所に向かったセリナ海賊団でした！

- 続く -

ちなみにセリナの父は大富豪のお金持ちを想像して下さいw
例えばDQ7のマリベルの父アミットさんみたいなwww

> i 1 7 7 9 6 — 1 9 5 4 <
メイドたち。
左から順に、メイド2、3、1ですw
名前はあれww
まあ、いいではないかw

・第8賊・（後書き）

さて、ここまででノート一冊分が終わりました。
感想等、よければください

- 第9賊 -

エル：ここがブルドロンス郷訓練所だ。

セリナ：まっ、まさか家の近くにあつたなんて・・・いつの間に・・・。

エル：んー、何時^{いつ}って言われても・・・50年はたってるぜ・・・

キアラ：・・・全然気づきませんでしたわ・・・

ミュー：仕方ないでしょう。だってここ、もしかしたら私の家より小さいですし。

ドリル：いや、確實こっちの方が小さいだろ・・・どうやってこんな所で訓練するんだよ・・・

エル：まーそれは入ってみたら分かんと思うぜ。

ガチャ

エル：おい！マスター、いるかー？

男：おお、エル様。久しゅうございます。

エル：マスター。訓練所に繋いでくれ。

マスター：かしこまりました。

セリナ：えっ？訓練所に繋がって・・・ここ訓練所じゃないのっ！？

エル：いや、訓練所には違いないが・・・まあ見てなって。

マスター：では、いきます。

ギギギ・・・グギィー

ン カシャン ドカツ

セリナ：なっ、何よこの音！？

キアラ：み、耳が・・・！

ドリル：いてえ・・・！！

ミュー：これはもしや・・・転送装置では！？

エル：ああそっだ。ここは色んな空間に繋がっているんだ。

ドリル：・・・そ、それであんな狭いのか・・・

キン！

マスター着きました。

エル：サンキューマスター。

セリナ：こっ、ここが訓練所・・・

キアラ：まるで砂漠のようすわ・・・

????：ようこそ、ブルドロンス郷訓練所へ。

エル：・・・相変わらずだな、ギルド。

ギルド：ははっ、そっちこそエル。・・・ん？今回はずいぶんと客が多いな。

セリナ：あ・・・あんたは？

ギルド：俺？ギルドロイド。ギルドでいいよ。んで、ここの教官をやっている。あんたらは？

セリナ：あっ、あたしはセリナよっ！修業しにわざわざ訓練しにあげたのよっ！！かつ・・・感謝しなさいよねっ！！

ミュー：あ、船長の言ったことは気にしないでくださいね。私はミューです。

ドリル：俺はルードルフ。・・・できるだけドリルとは言わないでくれ・・・

キアラ：僕はキアラですわ！これからよろしくお願いしますわね！

エル：とまあ、俺を含めて全員修業しに来たってことだから世話になるぜ。

ギルド：ふーん。これはまた珍しいお客だ。特にセリナといえばこ

近所のお嬢様じゃないか。・・・戻ってきてたのか。

セリナ：戻ってきたのは今日よっ！ついさっきパパと話をつけてきたわっ！！ってか、なんであんたがあたしの名前を知ってるのよ？

ギルド：まあー、一応ご近所さまだからなーw

セリナ：なによそれ……。 （あたしは知らないのに……。 ）

キアラ：ところで訓練って何をすればよいのでしょうか？

ギルド：ん、ああ、いつもならまず俺と1対1で戦うのだが今日はこれだけ人数いるしどうしたらいいのやら……

エル：魔獣場にしてくれたらいい。

ギルド：！！……。 しかし、いきなりはかなり危険だと……

エル：多分大丈夫だ。セリナはかなり素質があると思う。デルタから聞いた話じゃ、あのアイルーに傷を負わせたらしいからな。

セリナ：……。 （そういえば、そんなこともあったわね……。 ）

エル：それにミューも元忍者だったんだからかなり強いだろうしキアラもカンだが強いと思う。どうもただのメイドには見えないからな……。

キアラ：ほほ……。 僕はただのメイドですわよ……

エル：あとドリルは……。 まあ、一応男だしなんとかなるだろう。

ミュー：別に死んでも問題ないですからね。

ドリル：うおい！！？なんか俺だけ扱い酷くないか！？

ギルド：なるほど・・・そういうことなら分かった。魔獣場へ案内するよ。おいマスター！

マスター：かしこまりました。ただ今準備いたします。

ミュー：魔獣場とは・・・？

ギルド：文字通り、魔獣がいる場所だよ。今から君らはそれぞれ別の場所に入ってもらって一人一体ずつ戦ってもらう。時間は無制限だからゆっくりしてくれて構わない。あと魔獣を倒したらここに自動的に戻るので頑張ってくれ。

セリナ：ひっ・・・一人で・・・？

エル：大丈夫だ。モンハンと同じようにリタイアはできるから。

ミュー：ってかモンハン今ハマってないのにパクリすぎでしょう。

ギルド：もう酢羅射無は無視しようぜ・・・。で、武器は何かいい？

セリナ：・・・何があるのよ？

ギルド：うーん、まずは片手剣に双剣に両手剣だろ？弓、ランス、爆弾、ハンマー、ブーメラン、太刀・・・くらいかな？

セリナ：じゃああたしはハンマー。（面白そうだし）

キアラ：僕は太刀がいいですわ！

ドリル：えー・・・俺は・・・両手剣で・・・

ミュー：私は自分の武器があるので爆弾だけでいいです。

ギルド：はい、どうぞ。で、エルはどうする？

エル：俺はここにいるよ。行ってもしやあねーだろ？

ギルド：分かった。

マスター：ギルド様、準備ができました。

ギルド：ご苦労！じゃあ一人ずつあの扉に入って行ってくれ。頑張れ！

ドリル：じゃあ船長からどうぞー！

セリナ：ええっ！？あたしっ！？あっ、あんたから行きなさいよっ！！

ドリル：いいってwん？それとも・・・怖いんですかぁー？

ドリルさんのドヤ顔ムカつきますねー
ナイフ千本刺したいくらいですww

セリナ：そっ、そんなわけななっ、ないじゃない！！いつ、行つて

やるわよっ!!!(怖いですが本当は……)

スッ……

ドリル……き、消えた……?

ミュー……さー、次はドリルさんの番ですよ。

ドリル……お……おう……。

スッ……

ミュー……私が先でいいですか?

キアラ……はい

ミュー……では……

スッ……

キアラ……さーで、僕も行くとうしましょうかウフフフ

スッ……

エル……皆行ったな。じゃあ俺たちもやるか。

ギルド：は？やるって・・・

エル：とぼけんな。俺はまだ本気のおんたに勝っちゃいねー。・・・
今日こそ、俺が勝つ・・・！

ギルド：あーまだ言ってたのか。いいぜ。どれぐらい成長したか見てやろうじゃなーか。

エル：望むところだ！！

*

セリナ：なっ、何よここ・・・？なっ・・・何よあれ・・・？・・・
まっ・・・まさか・・・

???：・・・！！

*

ドリル：・・・すげーな・・・こんな所にも繋がっているのか・・・
まるで四次元だな・・・ん？あれは・・・

*

ミュー：・・・フフ、ここなら・・・本当の私を出せますね・・・
フフフ・・・

???：・・・ギイ

★

キアラ：魔獣と一対一ですか。．．．いいですね、久しぶりに
メイドを忘れて楽しめそうですね！

???：．．．ギャアアアア！！！！

こうしていよいよ始まった船長たちの修業。なんか約二名滅茶苦茶
喜んでいますが次回どうなるのでしょうか？お楽しみに！！

・つづく・

> i 2 1 6 2 5
— 1 9 5 4
<

> i 2 1 6 2 4
— 1 9 5 4
<

- 第10 賊 -

いよいよ修業も始まります。

セリナ：あ．．．あれは家の本に書いてあった．．．魔獣カオス！！
うそ．．．まさかこいつと戦うことになるなんて．．．。

カオス：．．．グギャアアア！！

セリナ：うつ．．．へっ、へこたれている場合じゃないわね．．．
みんなもないことだし、ツンデレキャラはとりあえず中止するわ．
．．．。

いや．．．あ大分前から中止されてなかった？

セリナ：そっ、そんなわけないわよっ！！すら犬ごときにわかるわけ
ないでしょうけどっ！！

ガン？（。 ㇏ ） 死

セリナ：もうこうなったらやるしかないわねっ！はあ！！

バキン

カオス：ギャアアア！！！！！！

セリナ：うつ．．．さすがに重いわね．．．。もっと軽い武器にし
とけばよかった．．．。

カオス：ギョウアアアアア！！！！

ザッ

セリナ：痛っ・・・！ハッ、ハンマーを盾にしていなきゃ危なかったわ・・・。にしてもあたし・・・こいつを倒せるかしら・・・。ハンマーは思いのほか使いにくいし・・・。うーん・・・。

*

ドリル：うおおー！！あ・・・危ねー・・・。こいつ見かけによらずすばしっこいな・・・。なんて魔獣なんだ？

魔獣：・・・デデデ。

ドリル：・・・あ？

魔獣：デデデーーーー！！！！！！

ギン！

ドリル：うわあああ！・・・いって・・・。なんだこいつ・・・。
“デデデデデデ”って・・・。デデデ陛下かよ！！

デデデヘーか：デデーーーーッ！！！！

ド
ス
ー
ン

ドリル：うおっ！地響きするぞっ！！うざっ！！キモっ！！．．．
 ってちょ、こっちくんやよ！！いやもうほんと．．．

デデデ：デデデぞー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！

ドリル：うわあああああああああああああああああああ
あ！！！！！！！！！

*

ミュー……おい、逃げるな。

魔獣：ニャー――ア！！（いや――だ！！）

ミュー：安心しなさい、あなたは私が責任として跡形もなく殺しますから……

魔獣：ニャー……ウー……！！（だからがいやなんだよ……）

ミュー：うるさいですよ、私に殺されるのが貴様の運命でしょ？このネコ太郎が

ネコ太郎：ウニャー！……ウニニニニャー！ア……！！！（誰がネコ太郎だ！……ってか殺されるのをわかっていても抗うのが敵ってもんだニャー！……！！）

えーっと、これはどう説明したらいいのか……まずこのネコ太

郎、元はちゃんとした魔獣でしたのですが・・・何故かミューさんがネコの形になるように切り刻んで何故かネコになってしまったんですよ・・・もうこれじゃあ闘いじゃなくてただの虐待ですね……；；

ミュー：さあ・・・そろそろ覚悟を決めてもらいましょうか。

ネコ太郎：ニャー……アアアアア！！（いやーだあああ！！！！！！あんたに殺されるくらいならもっと別の超美人の胸の上で死にたいニャー……！！！！）

ミュー：……それは高望みつてもですよ。貴様はナイフに埋もれて死んでゆくのが一番ふさわしい……。フフフ……

ネコ太郎：ニャーア！！？？（そんなの誰が決めたニャーア！！！！？）

ミュー：もちろん私。

ネコ太郎：ニャー……アアア！！！！ウニャー……アウウア！！！！（誰か助けて……！！！！）

*

キアラ：アーハハハ！！！！どうしたんだよ？来ねえのかあ？だつたらこっちから行くぞオラアア！！！！

ブシャアアアア

魔獣：グアアアアアア！！！ガッ！！！！

キアラ：どうしたよ？もう終わりかぁ？おいおい、せっかく昔のオレに戻ってやったんだから楽しませてくれよおいっ！

キアラさん・・・（^^；変貌しすぎ・・・；昔のキアラさんって不良だったんですね・・・；レンさんも大変だったんだろうね！・・・；；

魔獣：グウツ・・・

キアラ：なんだ、本当に終わりみたいだなあ。チエツ、つまんねーの。じゃあ最後に名前聞いといてやるよ！・・・っても言葉話せねーか。

バグ：・・・バグ。

キアラ：おっ！話せんじゃねーか。じゃあバグ。てめえはもうそれで限界か？

バグ：・・・今の貴様とは限界だが・・・最初の・・・メイドの時の貴様なら・・・。

キアラ：はあ？オレが手加減しろっていうのかぁ？・・・まあいいですね。すぐに終わらせるよりはマシですものね。では、本気で来て下さいね！

バグ：もちろんだ！ はああああ！！！！！！

ザッ！

キン！

キアラ：・・・この程度で本当に本気ですかぁ？いい加減なことしてますと殺しますわよ？

バグ：チツ・・・だったら・・・これなら・・・どうだぁ！！！！

バン！

キアラ：あつ・・・！や、やるじゃないですか。思わず戻ってしまっ
いそうでしたわ。では、こちらも！

ザッ！！

ブシャアアア

バグ：グアアアアア！！！！

バタ。

キアラ：あら、いけないですね。そういえば体力少なめでしたもの
ね。すっかり忘れていましたわ。・・・で、まだ行けます？

バグ：・・・クツ・・・。

キアラ：もう無理そうですね。なら、もういいです、あとはあなたをゆっくり殺すために内蔵を一つ一つ丁寧に潰してあげますわ！
ウフフフフ♪

バグ：……………クソッ…………。

*

キン！

ギルド：おっ！やっぱり成長してんな！感心したよ！

エル：当たり前だっ！あれから何年立ってると思ってただ！！

ギルド：まーそれもそうだなw

カン！

エル：オレだっていつまでも子供じゃない！！今度こそあんたに勝つんだ！！！！

ギッ！

ギルド：ぐっ…………ま、まあそうだな。今度こそ負けるかもしれない…………だが…………。

ザッ！！

エル：うつ・・・！！

ギルド：俺だってそう簡単に負けるわけにはいかねーんだよ。

エル：わ、・・・分かってる・・・。

*

ドカツ、

バンツ・・・

セリナ：あつ・・・！ハツ、ハンマーが・・・。ど・・・どうしよう・・・。武器がなきゃ勝てないわよ・・・。

カオス：ギョワアアアアオオオオ！！！！！！

ヴオオオオオオオオ（↑炎）

セリナ：きゃあ！も・・・もう少しで髪燃えるところだったわ・・・。
ん？髪？

ジーーーー（↑ハンマーの破片を見つめている。）

セリナ：そうよ髪よっ！！あたしの髪は特殊だからからまった物は切るか燃やすかしないと離れないのよ！だからこうしてハンマーの破片を髪に巻きつけたら・・・

力
チ
ヤ

セリナ：よし！これで二刀流ハンマーの完成よっ！何故か手で持つよりずいぶん軽いわっ！！

なんでだよ……どんな髪質だ……;;すげーな船長……;;;

カオス：グギャアアアアア！！！！！！！！！！

セリナ：ふん！くらいなさいよあたしの髪技をつ！！

[illegible]

ド
カ
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー

カオス：ギアアアアアアアアアアアアアアアアアア
ア!!!!!!!!!!!!!!（死）

(死)

セリナ：や・やったわっ！倒せたわっ！！あははははっ！！あつ、あたし一人で倒せたのよー！！！！はは・・・。さて、これで帰れるはずねっ！

$$\begin{array}{c} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \cup \\ | \\ | \\ | \\ | \\ | \\ | \\ | \\ | \\ h \end{array}$$

セリナ：・・・どういう事よ？あいつを倒したら自動的に帰れるんじゃないの！！？

マスター：申し訳ございませんセリナ様……

セリナ：この声はマスター！！？なっ、なんで天から……

マスター：はっ、これは私の声だけをこの空間に繋いでおりますからです。それはそうと、申し訳ございません。ただ今、エル様とギルド様が戦っておられてとても危険な状態ですので終わるまでしばらくそこで待つて頂いてよいでしょうか？

セリナ：はあ！！？

マスター：必要なものがあればそちらにお送りいたしますので・・・。
。お願いします。

セリナ：な・・・何よそれえ～～～

*

ドカ グサ ブシャ グシャ ブチャ ベチャ・・・

ネコ太郎：ニャーーン！！！！ウニャニャニャーア！！！！
（もうやめてニャーア！！体が手、足、胴、首に分かれて、内蔵を全部グチャグチャにされたのを生首だけの僕に被せられてもうずいぶんと苦しい思いしたニャー！！！！！！）

ミュー：生首だけになっても生きてるあなたが悪いんですよ。次は脳を切り開きます。

ネコ太郎：ニャーアア！！！！（本当にやめてニャー！！そんなことしたら死んじやうニャーアア！！！！）

ミュー：死んで当たり前です。だって私は殺すためにやってるんですから・・・。

ネコ太郎：（わ、わかっているニャー！で、でもこんな殺し方はあんまりニャー！！！一思いにやって欲しいニャー！！！）

ミュー：それは私のポリシーに反するので断ります。

ネコ太郎：（・・・なんなのニャあんだ！！あんだ本当に訓練しに来たのニャー！！？ただ虐待しに来ただけじゃじゃないかニャー！！！！？）

ミュー：それは違います。ちゃんと訓練はしてますよ。魔物を泣かすという。

ネコ太郎：ニャー！！！！（ガーーーーン！！！！）

ミュー：さあ、そろそろその脳をバラバラにしてあげましょうか・

ネコ太郎：ニャー！！！！アアアアアアア！！！！！！！！

バシュ　グシャ　グチャ　バキヤ　ドバツ　ドロツ・・・

ミュー：変わった形の脳ですね。心臓みたいなものが入っている・
・。それで、生首だけで生きられていたのでしょうか。

マスター：お疲れ様ですミュー様。それで申し訳ありませんが・・・

ミュー：分かってますよ。ここで待つとけばいいのでしょうか？さっき船長とのやりとり聞こえてましたから・・・。

マスター：！！！！・・・ミュー様、あなた・・・

ミュー：まだ誰にも言わないくださいね。知られたくありませんから……。それはそうと、少々食料を貰えませんか？

マスター：はっ、かしこまりました。

*

バターーーーー

キアラ：あっけなかつたですわね。まさかこうも簡単に死んでしまふとは……。意外に魔物つて脆いのですのね。

マスター：お疲れ様ですキアラ様。皆様、とても早いですね……。

キアラ：マスターさん！……もしかしてずっと見てました？

マスター：え……。ええ……。映像だけです……。

キアラ：声はないのですね！……よかった（あれを聞かれたらまずかつたわ……）

マスター：？それはそうと申し訳ありません。ただ今訓練にお戻りさせることができなくて……。

キアラ：分かりました！ここでお待ちしてますわっ！

マスター：……。ありがとうございます。

エル：うつ・・・

ギルド：もう降参したらどうだい？君の仲間もまっていることだし。

エル：ハァーハァー、ま、まだだ！！！！ハァアアアアア！！！！！！

キン！

ギルド：おっと！もう無理だ。諦めろ。確かにお前は強くなった。だがそれでも俺にはまだ・・・。

カン！

カラン

ギルド：なっ・・・！？

エル：ハァーハァー、や、やっとなんたから剣を奪うことがで、出来た。ハァ、こ、これであんたの負けだ！！

ギルド：・・・そうだな。実力では俺の負けだな・・・でも・・・

バシュ！

エル：うつ・・・！？

ギルド：戦いではこういう方法もあるんだよ。

エル：うぐっ・・・がふっぐはっ・・・！

バタ

ギルド：どーやら、これ以上は無理そうだな。あ、卑怯とか言うなよ？戦いの中では懐から短刀が出てくるなんて当たり前にあるんだからよ。

エル：・・・がっ・・・わ、・・・かってる・・・

ギルド：ふん。おいピクミン！こいつの手当てしてやれー！それとマスター！もう出してやってもいいぞー！

ピクミン：わかりましたなの！いやっていつてもムダなの！

カチャ カチャ

マスター：かしこまりました。

ピッ

セリナ：きゃあ！え？ここは・・・訓練所！！？エっ、エルは終わったの！！？

ギルド：ああ。今そこで手当てをしている。

キアラ：エルさん！すごい傷ですわ……。酷い……。。

ギルド：訓練なんだから当たり前だろ。つか、俺は無傷なお前の方がひどく怖いわ。

ミュー：魔物はただのバカですからね。

ギルド：まっ、そのバカにひどく手こずっている奴はいるみたいだが？

キアラ：ドリルさんはそれ以上のバカなんで仕方ありませんわ！

セリナ：そうね。

ミュー・どうせならそのバカのバカっぷりを見ませんか？

ギルド：おっ！いいねwどうせ暇だしマスターのモニター室で見るか！

*

デデデ・ぞい――！！！！！！！！！！

ドリル：ぎゃ あああああああああ！……！！！！！！

ド
ス
ー
ン

セリナ：ちょっとドリル！！！！

ドリル：うわお！！？船長！？ど・・・どこから・・・

セリナ：なんとこ見回したってあたしはいないわよー！！！！つかあんた遅い！！いい加減ムカついてきたわ！！もっ、もうあたし達は先に帰るからねっ！！

ドリル：ええええええええ！！！！？ちょ、ちょっと待って下さいよ！！お、俺をこんなところにおいてかないでー！！！！！！

ギルド：なるほど、こいつはハズレだ。

ドリル：誰がハズレだ

ミュー：行きましょう船長。

キアラ：で、でもミューさん、エルさんが・・・

エル：オレなら大丈夫だ。もう問題ない。

セリナ：じゃあ帰るわよ。

ドリル：いやいやいやいや！！！！まっ、待って！！リタイア！！リタイアするから！！！！！！

マスター：認めません・・・クス

ドリル：なんで！！！！？つか今笑った！？いやもうこんなところに

俺一人置いていかないで――！！！！！！！！！！

セリナ：へタレ。

ミュー：年増。

キアラ：キモい。

エル：死ぬ。

ドリル：一言ずつ悪口言うなああああ！！！！！！！！！！

デデデデー……！！！！！！

!!!!

ドリル：ぎゃああああああああ！！！！！！！！！！

こうして置いていかれたドリルさんでした（笑）

ドリル：笑うなあ

あ
!
!
!
!

- 第10賊 - (後書き)

デデデヘーか・・・w
懐かしいwww

あ、ちなみにペンタブは無事直りましたw
スキャナーは新しく買ったので大丈夫ですw

- 第11賊 - (前書き)

今回は百合、BL要素があつたりなかったり・・・w
とりあえず、注意です、いつも以上に暴走してます(^^ ;

- 第11賊 -

（ドリル以外）本日の訓練を終えたセレナ海賊団はお屋敷に戻ったのでした。

セリナ：はぁーっ、疲れたあ。あつ、あたし、しばらく部屋で寝るから夕食の時に起こしてくれる？

キアラ：分かりましたわお嬢さま！

セリナ：うん、お願いね。ふわあ。

スタスタ・・・

エル：オレ達はどうしたらいい？

ミュー：何か手伝うことはありますか？

キアラ：いえ、大丈夫ですわ！お二人とも好きにしてくれて構いませんわ。

エル：好きにって言われても・・・

ミュー：広すぎてよく分かりません・・・

キアラ：ウフフフ。僕はお仕事がありますのでこれにて失礼しますわ。

タツタ・・・

エル………。

ミュー：どうすると言われても……

エル……。部屋に戻りたいが……

ミュー：どこか、分かりません・・・

.
.
. .
.

エル&ミュー
ー :

エル……こういう時、田舎者って辛いよな……

ミュー：ええ……。……。とりあえず、色んな部屋を当たってみましょう……。

エル：ああ……。

*

ドリル：いててててて！……いてーえ！……もうちょっとやさしくしてくれー！……！

ピクミン：がまんするなの！いやっていつても殺すなの！！

ドリル：殺す！！？

あのあとドリルさんは大怪我を負い、結局リタイアをしたのでした

く(^ ω ^) うっわあ、ダッサｗｗｗｗ

ギルド：まったく、情けないな。そんなんでこれから先やっていけるのかあ？

ドリル：うるせーな……。俺はもともと平和主義なんだよ……。相手がゴミであれ、戦いは好かねー。

ギルド：……。お前以上のゴミなんてどの世にもいないけどな……。。

ドリル：え？なんか言ったか？

ギルド：いいや別に。それで、何で平和主義^{カス}のお前が海賊なんかになっっているんだよ？

ドリル：……。憧れ……。かな。

ギルド：？

ドリル：俺は船長の母、セレナ様に憧れて海賊になったんだと思う。

ギルド：あーあの若くに亡くなった。俺、一回見たことあったけどすごい美人だったよな。

ドリル：うん……。そして優しい人だった……。セレナ様は他の海賊とは違って船を襲ったりしない。海を荒らす魔物退治をやっていたんだ……。しかもその魔物から剥ぎ取った素材を町の人にあげたり……。なにより……。孤児だった俺を仲間に誘ってくれた……。セレナ様は立派な方だよ……。

ギルド：……ふーん。でも、なんでお前はその人が亡くなった今も海賊をやっているんだ？こんなに弱いんだからやめた方が皆のためだろ。

ドリル：まあ……そうだな……。でも……

（俺は……罪滅ぼしをしなければならいから……。セレナ様を死なせたのは多分……。俺だから……。）

ドリル：船長に、セレナ様の意志を全て伝えるため、俺はまだしばらく海賊をやっていくよ。

ギルド：そうか。

ドリル：さあーて、俺もそろそろ帰るか！

ギルド：はあ？何言っただお前。手当てが済んだら早速訓練開始だぜ？

ドリル：ええ！？今から！？せめて明日に……

ギルド：何言っただ、デデデヘーかを倒すまで帰さねーぜ。ほらマスター！

マスター：はい。さあドリル様、こちらへ……。クス

ドリル：ぎゃあああああああああああああああああああ
！！！！！！！！！

*

エル……なあ、今で何部屋当たった……？

ミュー：正確には分かりませんが・・・多分千は越えています・・・

エル……。一体、この家はいくつ部屋があるんだ……

ミニユ一：まるで城ですね・・・

エル：ってかなんでこんなに歩いてて誰一人とも会わないんだよ・

ミュー：こんなことならキアラさんについていけばよかったですね。

・ エル：はあ―――あ・・・・・ほんと、誰か来てくれないかなあゝあ・・

メイド：どうしました？

キター！！！！！！

。　　。

。　　。

ミュー：す、すいませんが私たちの部屋まで案内してくれませんか？

メイド：あ、はい。こちらです。

[illegible]

スタスタ

スタ…

メイド：こちらです。

エル：よかったぁー！！やっとなついたーあー！！

ミュー：ありがとうございます！！ほんとにありがとうございます！！
すー！！

メイド：あ…いえ…。

メイド：ところでお前、名はなんて言うんだ？

メイド：はっ、私はレ…

ミュー：はい？

メイド：す、すみません、私…自分の事は話すなと姉に口止めされてまして…

エル：へーえ、姉かぁ。どんな人なんだ？

ミュー：実はキアラさんだったりしてw

メイド：！！！？あのその…し、失礼します！！！！

タタタタ…

ミュー：…どうしたのでしょうか？

エル：さあ…。シャイなんじゃねーの？

ミュー：ああ。そうでしょうね。とにかく無事部屋に着いたことで
すし休みましょう。

エル：ああ。じゃあまた後でな。

ガチャ

ボタン

ボタン

ミュー： 広い…

*

キアラ：ウフフフフ♪危なかったですわねw

???： 姉さん、わざとですかあんな格好をさせて…

キアラ：ウフフフフ、バレなきやいいのですよ♪それにもしバレて
もあなたを殺すまでだわ♪

???：…。姉さん…。しばらく見かけない内にさらに性格が悪くな
りましたね…

キアラ：ウフフ♪冗談ですよ、可愛い弟を殺すわけじゃないで

すか♪僕はもう実はそんなに気にしてないですよ。なので困るのはあなただけですわ♪

????…。。。。。そうですか…。あの…もう仕事に戻っていいですか？

キアラ：いえ、今日はあなたの分の仕事は僕がやっておきますわ！だからあなたはゆっくり休んでくれていいですよ♪

????…え…でも…

キアラ：僕、三賊くらいであなたのこと、憎いとか思ってたけどこうして旅をしている間に思ったのです。“僕って普通に可愛いじゃん” って♪だから別にあなたが仮面をつけていようが、外していようが別にいいですよwウフフフ♪

????…。。。。いや、仮面はつけますし服も着替えますよ！そうじゃなくて帰って来たばかりの姉さんに無理をしてほしくないということ…

キアラ：大丈夫ですよ♪訓練所に行って回復しましたから♪むしろ、メイドの仕事をしないと危ないくらいにww

????…え？ あ、ああ…。そ、そういうことならお願いします…。。。。

キアラ：ウフフフ♪任せて下さい！そっちも久しぶりに羽目を外すといいですよ♪

????…はい。では失礼します姉さん。

*

ギイ…

エル&ミュー：あ

エル：…やっぱりそっちも落ち着かないか？

ミュー：ええ…。なんせ私の家より広い部屋に一人ですので…。。

エル：だよな…。…なあ、よかつたら二人一緒の部屋を使わないか？

ミュー：私も同じ事を考えていました。是非そうしましょう。

エル：よし。じゃあそっちの部屋に行こうか。

ヤン

ガシ

なんだかんだやっている内に夕食の時間になりました

―セリナの部屋―

ガチャ

キアラ：お嬢さまー！夕食の時間ですわよー！おきて下さいましー！

セリナ：んんー…もう？

キアラ：はい！なので一緒に行きましょう！お嬢さま♪

セリナ：ふわあゝわっ、分かったわ。

ーリビングー

ミュー：あ、船長。おはようございます。

エル：よく眠れたか？

セリナ：あ…あんたたち…早いわね。

キアラ：あら？ドリルさんはまだ訓練所ですか？

ミュー：いえ、帰ってきているようですが傷が酷いとかで倉に籠もっています。

セリナ：ったく、情けないわね。

キアラ：まあいいですわ。みなさんも揃ったことですし料理を運んできますわ！少々お待ちくださいませ。

タタタ…

ガラガラ…

チャ　カチャ

カ

キアラ：お待たせしました！ではごゆっくりどうぞ。

エル：ごゆつくりって…キアラは食べないのか？

キアラ：はい！僕はまだやることがありますし…。それに…メイドですから♪ではw

タタ…

エル：メイドって大変なんだな…。

セリナ：いつもはそんなことないんだけどね。今日はやたらと働きたがっているのよキアラ。

ミュー：…ってか…料理もすごいですね…。

セリナ：そう？普通だと思うけど。

エル：そりゃ…あんたはここの家の者だしな…

ミュー：私ら貧乏田舎人にはすべてが驚きなんです。

セリナ：ふーん。まあいいわ、とにかく食べましょ。

ヤ カチャ

カチ

ミュー：うつ…ナイフとフォークの使い方が…

カチャ カチャ

エル：よし、やっと切れた。皿を切らないように肉を切るって難しいな…。

モグモグ

エル：う…うまい。

ミュー：こんなもの…いままで食べたことがない…

セリナ：…。。。。そう。

エル：？どうしたんだ？

セリナ：べべっ、別にうらやましいだなんてっ、おっ、思っ
てないんだからねっ！ーごちそうさま！ふんっ！！

ボタン

セリナ：…あんなものに感動できるなんて…いいな…。

トボトボ…

エル：？セリナ、なんで怒ったんだ…？

ミュー：さあ…ってか船長、食べるの早いですね…。

エル：確かに…。ってか、やっぱナイフ使いにくいな…

ミュー：そうですね。私たち以外、この部屋にはいないわけですし、この際切らないで食べませんか？

エル：おお！そうだな。それがいい！！

バク

バク

エル：あゝナイフないだけでこんなに楽だなんて♪

ミュー：さすが、ハンターですねw

行儀の悪いお二人さんでしたw w

――倉――

ドリル：あーくっそ…まだ痛む…。デデデヘーか倒せたのはいいけど…これじゃあ相打ちと変わらねーよ…

レン：あ…ルードルフ。ここにいたのですか…。

ドリル：おっ！レン！…久しぶりだなwもう仕事は終わったのか？

レン：…姉さんが代わってくれたので…。

ドリル：へえー…珍しいこともあるんだな…。で、お前はここに遊びに来たのか。

レン：はい。ここは…唯一昔を思い出せる場所なので…。姉さんは

嫌いだそうですけど…。

ドリル：……。

レン：ここから見える星がとても綺麗なんです…。

ドリル：……。あのー、よかつたらここで寝るか？

レン：え！？で…でも…そんなことをしたらあなたの寝床が…

ドリル：俺は外でいいよ。

レン：え…でもでも…あ！なら一緒に寝ましょう！それなら大丈夫ですよ！

ドリル：全然大丈夫じゃねーよ…。もしここに誰かが来たら絶対誤解される…

レン：誤解とは？

ドリル：子供が知らなくていい事。

レン：……。分かりました。では私が床で寝ます。

ドリル：いや、いいって。お前に風邪でも引かれたら俺が死ぬ…

レン：そうですか…。すみません…

ドリル：気にするな。今や俺のこと“ルードルフ”と呼んでくれるのはお前くらいだからなw

レン：？

*

お行儀の悪いお二人は部屋に迷わずに戻れて、一緒に寝るのですた〜

ミュー：私…エルさんがいてよかったです。こんな広いベッドで一人で寝れなかったでしょうから。

エル：俺もだ。金持ちってすごいよな。こんな5人は確実に寝れるベッドで一人で寝ているんだからさ。

ミュー：本当ですよねふふっ。……エルさん…温かいですね…。気持ちいい…。

エル：……。ああ。

ミュー：私…誰かと寝たの、初めてだと思います…。母は…すぐ亡くなったから…。人のぬくもりって…こんなにいいものなんですね…。

エル：……。もう寝ようぜ。

ミュー：はい……。おやすみなさい…。

エル：……。ああ…。

こうして一日を終えたセレナ海賊団でした。

・
つづー

> i 2 3 4 3 3
— 1 9 5 4
<

ドリルボロボロ
wwwwww

> i 2 3 4 3 5
— 1 9 5 4
<

謎のメイド。

(でも三賊を読んだならこの人の正体がわかるはず…w)

- 第11賊 - (後書き)

これ描いてて、ドリルを本気で殺したくなつたww
あーあ、早く死なないかなーあw

エルとミューさん、はたから見るとめっちゃイチャイチャしてるw
でも実際は百合でs()()

いや、本当の本当はお互い昔のことを思い出しているだけです・・・
。

- 第12賊 - (前書き)

久々すぎて本当すいません…。

- 第12賊 -

セリナ：で、今日は何の訓練をするのよ？

ギルド：んー、まあ集団演習って言ったところかな？

ミュー：…そんなもの、やる意味あるのですか？

ピクミン：はつきり言っていないの！

ドリル：……。じゃあなんでやるんだよ…。

ギルド：んー…、ページ稼ぎだな。

キアラ：……。すぐに終わりそうですわね…

エル：そんなことはねえと思っぜ。お互い仲間の前では本気をだせないだろうからな。

キアラ：……。。

セリナ：…。

ミュー： フッ

ドリル：……。 （本気も何も…って感じだな俺は…）

ギルド：まっ、がんばれ。

セリナ：…わかったわ。じゃあ部屋に案内しなさいよねっ！

ピクミン：その前にモンハンやるなの！

ドリル：………は？

ミュー：実践と何の関係が…

ピクミン：まったくもってないなのw

キアラ：フッフ…分かりましたわ、少々お待ちくださいませ

タタタ…

すら犬：ごめんなさいごめんなさい！！もつふざけませんから！！
だからそれだけはお許しをおおおおお！！！！！！！！あああ
ああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああああ
！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

ブシャアアアアアアアア

タタタ…

キアラ：終わりましたわ♪では集団演習をやりましょう♪

セリナ：全てはすら犬のしわざね。

ドリル：それ以外にこんなことする奴はいないがな…

ピクミン：ええーもういつちゃうなの？せめてティガレックスだ
けでも…

セリナ：却下。

ピクミン：ええー！

ギルド：我が儘言つなよ。後で俺が付き合つてやるからよ。

ピクミン：…わかったなの。

マスター：皆さま、準備が整いました。

セリナ：じゃ、お願いっ！みんな、いくわよ！！

*

セリナ：ここは…。

ミュー：前の時と比べて随分広いですね。

ギルド：そりゃそうだろ。なんだって、そこは訓練所じゃねーからな。

セリナ：ああ通りで…ええっ！？

ドリル：どういうことだよ！？訓練所じゃないって！！？

ギルド：んーつまり、お前らにとっては実践つてところかな？デルタの仕事…アカムトルムより何倍もデカい魔物…バイテラース討伐だから。

ドリル：えええええ！！？いきなり実践かよ！！無茶ありすぎだろ！！

ミュー：まー、手間が省けてよかったじゃないですか。

キアラ：そうですねwなんとかありますわ！

エル：…そうだといいがな…。

セリナ：どういうことよ？

エル：ここは…このエリア以外、回線が繋がらない。しかし奴がいるのはもつと奥のエリアだ。つまり…リタイアができない…。

セリナ：それって…最悪、死ぬって…こと？

エル：…ああ…。

ドリル：…。大丈夫なのかよ…

エル：全然大丈夫じゃない…。バイテラースは今までの奴らと桁違いに強いから…

ミュー：…。。。

キアラ：…。。。。。

セリナ：…。。。。どうするみんな…。

ドリル：…やめた方が…よくね？

???：んな心配すんなって。

セリナ：！？誰よっ！？

天道院：オレ？天道院だよ。

ミュー：天道院って… 完結しないまま終わったナイン君の冒険記の…？

セリナ：スラまさ最終章にも出ていた！！

キアラ：何故こんなところに？

天道院：うつせーな… すら犬も知らねーだろうがナインの奴が夢花に奴を殺してくれたおかげでオレは自由になったんだ。だが、自由には金が必要だと知ってここで働いてるんだよ。

セリナ：働いてるって… 何をしているのよ？

天道院：てめーらみたいなハンターがバイテラースと戦って死にかけている所をここまで運んで助けてやる、その代わり金を頂く。そりゃもうがつぽりと！

キアラ：よかったですわね♪これで安心ですわ！

セリナ：ええ… でも絶対死ねない…。

天道院：いや、是非死んでくれw

セリナ：ゼー……ったいイヤよっ！！

天道院：チッ……。バイテラアースはこの地図のエリア15にいる。
地図はやるからとつとと死んでこい。

セリナ：だっ、誰が死ぬもんですかつ！！今回だけはドリルも死な
ないわよっ……！

ドリル：だけ……？

ミュー：そうですね。今回だけはドリルさんも守らないと……。

キアラ：はゝあ、面倒くさいですわね……

エル：こんなことなら先にドリルを殺しておくべきだったな……

ドリル：いやちよお！！みんな酷くね！！？

天道院：はははゝwま、せいぜいがんばれww

セリナ：ふんっ、みてなさいよっ……！

こうして妙な意地を張った船長でしたゝ

*

— エリア3 —

セリナ：……疲れた。

エル：そうだな…。ちょっと休憩するか。幸い何もいねーし。

—エリア6—

ミュー：もう暗いですし、今日は休みましょう。

—エリア9—

セリナ：…って、ここ何もいないじゃないのっ！…どういうことよっ！？

ドリル：いや…俺に言われても…

エル：どうやらここにはバイテラース以外、何もいないみたいだな。

セリナ：どんな所よ…。

ミュー：こんな所です。

キアラ：まーいいじゃないですかお嬢さま！ただでさえ広くて疲れるですよ？その上に魔物までいたらたまりませんわ。

セリナ：そうだけど…。

ミュー：（私はいた方が嬉しいですけど。）

セリナ：…まあいいわ。休んだら先に行きましょう。こんな所に何日

もいたくないわよ。

―― 一方、訓練所では――

ピクミン：ねー、

ギルド：んー？

ピクミン：セリナ達、生きて帰ってこられると思うなの？

ギルド：さーな。天道院があそこに来たハンターを助けられたことは一度もないからなー。

ピクミン：……。なんで…こんなにも早くあそこに行かせたなの…？

ギルド：なんでって…。そりゃ…あいつら、海賊なんだから一刻も早く船を渡してやった方がいいかなーって。

ピクミン：だからって…。

ギルド：…わかった、正直に言おう。実はもう他に訓練やる必要ねーんだあいつら。

ピクミン：…え？そつ、そんなに強い魔獣とやっていたなの！？

ギルド：ああ…。あいつら…本当に強い。それもケタ違いに。

ピクミン：…ドリルさんもなの…？

ギルド：いや…あいつは…。でも…あの中ではクソ弱いだけで本当は結構強いと思う。あくまでも思うんだけど。だが、あの性格さえなければもつと…。

ピクミン：…そうなの。

ギルド：おっ、ナルガ殺れたぜ！天鱗でるか？おおっ！！でたでた！

ピクミン：ええっ！いいなあ！！ボクも！！

マスター：ふふっ。

モンハンにハマりまくりなギルド兄弟でした

―そしてついに…エリア15…―

セリナ：なっ…何よこれ…！？

ドリル：ほとんど足しか見えねーじゃねーか…

ミュー：なるほど…強敵ですね…。

キアラ：…これがバイテラースですか…。

エル：まあ…とにかく、やるしかねえ！！はああああ！！！！

キン！

カン！

エル：なっ…！？跳ね返された…！？

ミュー：刀は効かないのでしょうか…。

セリナ：なら、あたしが…！

ドカン！
バン！

セリナ：あっ…あたしのも無理だわ…。

ドリル：（船長…髪がハンマーって…。）

キアラ：どうしたらいいのでしょうか…。

エル：弱点を見つけるしかないな…。

ドリル：…でも足しか見えねーよ…。

エル：うーん…。

???：バイテラアース…それは大きな竜…

バイテラアース…それは硬き魔物…

そんな彼に弱点はあるのでしょうか？

バイテラアース…本当はとても脆き鳥…

ドリル：…！この声は…

エル：クライダーマ…！

クライダーマ：おや…？君はいつぞやの…。

セリナ：あれがクライダーマ…

キアラ：子供…ですわね…。

ミュー…。

エル：お前…何をしている！！

クライダーマ：シシッ♪オイラは歌を作っているんだ。こいつのねシシッ！

セリナ：歌…？あ！！ねえ！！”脆き鳥”ってどういうことよっ！？

クライダーマ：シシッ、そのままの意味だよ。あいつは竜としては大きくて、魔物としては硬い。でも鳥としてはとても脆いんだ…。

セリナ：……ええ？？

クライダーマ：シシシッ♪まっ、上から見たら分かると思うよ♪ところで、さっきからなあーんで隠れているのかなあ…そこのおチビさん？

セリナ：え？

キアラ：ミューさん？

ミュー…。

クライダーマ：オレなーんか、あんたのこと見たことがあるような

気がするんだよね

ミュー：気のせいじゃないですか、私は知りませんよ…。

クライダーマ：いや確かにどこかで…ああ！思い出した！あんたエクスルアの姉じゃん！！あまりにも小さくなってるから全然分からなかったよ

ドリル：小さく…？

ミュー：違います、人違いです！私はもうあの子とは関係ない、ミューなんだ！！

クライダーマ：いやいや、このオレが君のことを間違えるはずがないんだ。だって君は…

ミュー：違う違う違う！！私は、違うんだ！！もうそんなこと…絶対に…違う…うつ…

クライダーマ：…まっ、いいけどね。オイラには関係ないことだし。シシシッ

セリナ：一体…どういう…

クライダーマ：気にしないほうがいいよ。彼女のことを思うからね。それじゃー！

スッ…

キアラ：大丈夫ですかミューさん！？

ミュー：はい…大丈夫です…気にしないで下さい…。

エル：なんだったら別エリアにいてもいいんだぜ？

ミュー：いえ…本当に…大丈夫ですから…。

ドリル：…そうか。

セリナ：それよりあいつが言ってたこと、どういづことかしら…上から見たら分かるって…。

ミュー：…もしかして体の部分のことを言ってるのではないでしようか？

セリナ：部分？

ミュー：ええ。”大きな竜”は体全体のこと、”硬き魔物”は皮膚の硬さ。そして”脆き鳥”は…

セリナ：ああ！もしかして翼！？

ミュー：…いえ、それだと竜にもあるので恐らく嘴でしょう。

セリナ：なるほどそれが弱点ねっ！！

エル：しかし…どうやったらそんな所を…。

キアラ：そうですね…空でも飛べたらいいのですが…。

セリナ：それは無理よね…。こんなことなら自家ジェット機でも持つてこればよかったわね…。

ドリル：いやいやいや…。んなもん訓練所に入らねえよ…。

エル：むう…。さすがにこれじゃあ…。

ミュー：…私が空を飛べたらよかったんですけどね…。

ドリル：いや…。だから無理だつて…。

キアラ：せめてもつと表面がゴツゴツしていれば登れたかもしれないませんけど…。

セリナ：ん？登る…のぼ…そうよっ！それよっ！！あたしが登つて嘴を壊してこればいいのだわっ！！

ドリル：えええ！！？船長！！そんな無茶な…

セリナ：大丈夫よっ！この髪があれば落ちずに済むわっ！！
ハンマー

ミュー：すごいですね…。どんな髪質ですか…。

セリナ：じゃ、行ってくるわねっ！ちよつとの間待っててっ！！

こうして嘴を破壊しにバイテラアースの上を登ってゆく船長でした。

― 続く ―

> i 2 7 6 1 7 — 1 9 5 4 <

天道院（16歳くらい）。

久々（読者の人にはわかんないでしょうけど。）に出てきた天道院。
あの時はまさか、こんなところにも出るなんて…夢にも思わなかった
ろくな！
…

- 第13賊 -

バイテラアースの上を登り始めて、二時間経ちました…。

セリナ：ハアハア…さっ、さすがに体力が尽きてきたわ…。一体どれくらいデカいのよこいつ…。

カンテレラ：ニヤニヤー！！（船長大丈夫かあー！！）

セリナ：カンテレラ！？あなたどうやってここまで…

カイ：キュー（私たちが支えながら）

ミル：ウー（大変だったんだよー）

ルミ：アー（これまでもずっと存在忘れられてたからねー）

セリナ：あんたたち…もう、仕方ないわねっ！さっさと壊して下に戻るわよっ！！

カンテレラ：ニヤニヤニヤーン！！（あいあいさー！！）

*

ここで、ちょっとした余談ですが…。（めんどくさいなら飛ばして下さい）

すら犬：今日ね今日！すっごい可愛いネコを見つけたんだ！！

書記：はあ。

すら犬：ネコだよネコ！！たしかチンチラ？みたいな種類の！！僕と何回も遊んでくれたんだあー！！しまいには抱かせて貰ったし！！

書記：へえ。

すら犬：もう一目惚れなんだよあー！！もう超かわいーの！！でもね…家では買えないんだ…

書記：お前のばーちゃんネコ嫌いだもんな。

すら犬：そうなんだよあー！！もうーあんなに可愛いのにさー！！

書記：ってかお前ん家犬二匹飼ってるじゃん。これ以上動物いらんやろ。

すら犬：えー！！！！いるよあー！！ネコとか（無理やけど）鳥とか（無理だが）あとミーシャとティアの子供！！

書記：あの子らに子供とか…無理やろ。

すら犬：確かにミーは難しいが…ティアは今から太らせれば…！！

書記：あーはいはい。

すら犬：んでえゝゝ子供の名前はゝゝいっぱいいるだろうけどゝ全部飼うわけじゃないからゝ一匹僕のはゝカンテレラでゝ耳を立てせ

「ニヤーと言わせ…」

書記：無理だから。

すら犬：ぶーん！無理じゃないもん！僕の夢はネコ（楽器）
とうさぎ（ミンリイ）と犬（語り）を飼うことなんだよ！！

書記：おいちょっと待て！！なんで僕が入ってない！？

すら犬：はーん！お前なんか大っ嫌いだわボケ。

書記：へーん！僕もお前なんか大っ嫌いやわハゲ。

すら犬：ああん？やるかコラア！？

書記：望むところじゃオラア！！

飛河：ちょっと待てお前ら…。うるさい、うざい。そういうことは
よそでやれ。

すら犬：ああ！！そうだった！！こんなことしていたらまたキアラ
様に殺される！！ありがとう飛河！！愛してるよ！！

飛河：死ね！！！！マジきもい！！！！

すら犬：や〜ん〜もう〜ツンデレなんだから〜っ！

書記：やめろすら犬！！今作っているクソゲーの奴でならともか
く、セレナ海賊団でそんなキモイことするな！！僕の美しい顔が汚
れる！！

すら犬：あ、ごめん…お前は別に美しくないむしろ吐きそうなくらいキモいけど。そろそろ黙らないとまだまだ出てこない守哉に百魔害段大砲射院を喰らわされる…。

書記：いまいち納得出来ない事いいやがったけどそういつことだ！さあ帰れ！！

すら犬：はあ…い…

ほんと、す

いませんでした。

*

ミュー…船長大丈夫でしょうか…？こいつ、今はまだ気づいていないようですが…気づかれたら大変なことになりますよ？

ドリル…まあ…そうだが…。カンテレラ達が行ったから多分大丈夫だろ…。

エル…？あのネコ達が行ったからってなんで…

キアラ…犬ですわ、エルさん。あの子達は普通の動物とはちよつと違いましたね…。危険を感じますと覚醒しまして魔人になるとい…

ドリル…いやなんねーよ…

エル…じゃあどうなるんだ？

ドリル…どうにもなんねーよ。でも…船長が…元気づかされるんだ。

ミュー：そうですね。でも……

（**嘴……を壊したら……本当に大変な事になると思うのですが……ね……**）

*

セリナ：やつ、やつた…！やつ、やつと頭、が見えたわ…！

カンテレラ：ニヤニヤア！！（**嘴まであともうちよつとだな！！**）

カイ：キュルキュー！（この調子なら！）

バイテラアース：ウガアアアアアアア！！！！！！！！！！

ズーンドーン

セリナ：きゃあああああ！！

カンテレラ：ニャー！！（船長！！）

セリナ：だつ、大丈夫よ……ありがとう……。でもついに動きだしたよ
うね……急がないと……。

バイトテラァーす：ゴアオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
オ！！！！！！

ブ
ン
ツ

セリナ：…っ！あつ、あんまり…なつ、舐めないでよねっ！…ハ
アアアアア！！！！

バコンー

バイテラアース：ギョアアアアアアアアアアアアアアアアア
！！！！！！

セリナ：やつ、やったわっ！！ついに壊せたわっ！！

カンテレラ：ニャーニャニャーア！！（で、でも船長！！）

カイ：キューキューウ！！（落ちてますよー！！！！）

セリナ：え…

ヒュウ

ウウウウゝ

セリナ：きゃあああああああー！！！！！！

ミル：ウアアアア！！（す、すごいよこれ！！すごい高いところから落ちてるよー！！！！）

ルミ：アアアアア！！（バンジージャンプってこんな感じなのかなああ！！！！）

カンテレラ：ニャニャー！！（んなわけないだろうっ！！！！！！！！！！）

セリナ：そんなことどうでもいいでしょうがっ！！ってかなんでカイまで落ちているのよっ！！？あんた飛べるでしょ！！？

カイ：キュー…（いえ…羽がうまく拡がらなくて…）

セリナ：なによそれー！…！そんなスピードで落ちたてるのあたし
たちー！っ！…

ミュー：船長！…

セリナ：みんなっ！…！…！つてもうこんなところまで落ちているわけ
っ！…！？行きよりずっと早いわ…

カンテレラ：ニヤニヤア…（つてかもう死確実…）

セリナ：えええええっ！？そっ、そんなあゝゝゝ…！！…！！

ヒュウウウ

ウウゝ

ガシッ

セリナ：…え？

天道院：…たく…あんま世話焼かすなよな。

セリナ：天道院！？なんであんたが…つてどこ触ってんのよ…！！？

天道院：うるせえな…こうしねーと支えられねーだろうが…。

セリナ：はっ、早く降ろしなさいよっ！！

天道院：わかってるって…。

スタッ

セリナ：で、なっ、なんであんたがあんなところにいたのよっ！？

天道院：だから仕事だよ。つーわけでお代は100万Gで…

カンテレラ：ニヤー（お金は払わないよ）

天道院：ああん？

カイ：キュルキュー（助けて貰って申しわけないけど私らお金持ってないので。）

天道院：じゃあ有り金全部よこせよ。

セリナ：うるさいわねっ！！金金金って…そんなに欲しいならドルの内蔵でも売りなさいよっ！！

ドリル：ええっ！？

ミュー：今はそんなこと言っている場合じゃありませんよ。あれを見てください。

セリナ：え…あっ！小さくなってる…！

キアラ：で…でも動きが活発になった気がしますわ…！

ミュー：ええ。いよいよ奴も本気になったというわけです。天道院さん！

天道院：あ？

ミュー：あとでドリルさんの内蔵売るなり好きにしていいますから今は手伝ってくださいませんか？

ドリル：ええっ！？

天道院：金をくれるならいいぜ！

ドリル：ガーーーーーン！！！！

ミュー：よし、ではさっそくやりましょうか。

エル：やるって…何をだ？言っとくがキレた時のあいつは本気で強いぜ？

ミュー：だからこそ作戦は必要でしょう？私も上手いくとは思ってませんから…。あんなやつ…。

エル：…そうだよな…。あいつを倒した奴なんてまだ…一人もいやあしねーからな…。

天道院：え？そうなのか？でもオレの知り合い、確かだいぶ前にバイテラアース殺ってたぜ？

ミュー：…！！

エル：嘘だろ！？だってそんな話、今まで聞いたことねーし…

ミュー：…その人の…紅院道の、奴を倒した時の作戦を知ってます

か？

天道院：あ、ああ。酔っ払いながら話してくれたからな。…ってまさか…あのやり方でやる…のか？

ミュー：それしか方法はありません。

天道院：まじかよ…

エル：え…？な、なんだよその方法って…？

天道院：それはだなあ…

ミュー：魔聖霊千剣という技を放つのです。

セリナ：はあっ！？

ドリル：な、なんだよそれ…？

天道院：オレもよくは知らねーけどなんか…気合いだと言ってた気がする…

キアラ：そんな曖昧な情報で本当に出来るのですかあ？

ミュー：私も出来る気はしませんが…それしか方法がありません。せめてパソコンがあれば…

セリナ：パソコン？だったら一旦家に戻ればいいじゃないっ…！

エル：それができるならな…。

セリナ：あ…。

よく見ると来た時の道は岩で塞がれていました。一応もう一つの道はあるのでエリア移動は出来ますがそのエリアは行き止まりなので。

バイテラアース：ギョアアアア！！！

ザクツ

キアラ：…！…！…！

セリナ：キアラっ！！このっ…！！

ンツ

バ

ミュー：このままでは全滅してしまいます！！一旦エリア16に行きましょー！！

セリナ：ええ！！キアラ大丈夫っ！？

キアラ：はい…。これぐらいなんともありませんわ…。

エル：じゃあ早く行こうぜ！！

こうしてエリア16へ…

*

セリナ：はあはあ… なっ、なんとか逃げ切れたわね…。

ミュー：しかしどうしましょう。奴がここまで来ることはないでしょうがこのままでは何も出来ませんし…

ドリル：その…魔聖霊千剣っていうのを使わなくても普通にやれねえのか？

ミュー：絶対、というわけではありませんが多分、奴を倒す前に私たちの体力が尽きます。

セリナ：ああもう！…一体どうすれば…ん？あれ…？

キアラ：どうされました？お嬢さ…あ…人、女の子ですわ…。

ミュー：え…？何故こんなところに…

天道院：オレがここに来る前からいたみたいだな。

エル：冷たい…。でも生きているみたいだ。

ドリル：ずっとここで眠っているのか…

セリナ：うーん…にしてもこの胸の模様…変な形よね…。ちょっと触ってみようかな…

キアラ：実はスイッチかもしれませんわねふふっ♪

セリナ：ははっ、そんなわけないでしょ？

チッ

全員：力チ？

キュイイイイイイイイイイイイイイイ

パチ…

女の子：Bonjour…何が…知りたい？
ボンジュール

突然動き出した謎の女の子。一体彼女は何者なのでしょう…！？

—つづく—

>i29264—1954<

謎の女の子（見た目16歳）

エリア16でずっと眠ってたと思われる少女。胸のボタン（！？）を触ると突然動き出した！？

- 第13 賊 - (後書き)

ちなみにクソゲー制作はやめました。だってクソゲーだし…

- 第14賊 -

女の子：何が、知りたい？

セリナ：…えーっと…、とりあえず、あんたの名前は？

オルディナトゥール：……オルディナトゥール。

ミュー：ではあなたはここで何をしていますのですか？

オルディナトゥール：…何もしてない。気がついたらここに…。

ミュー：それは困りましたね…。

セリナ：そうね…このままほっとくわけにはいかないし…。

キアラ：それにしても何故こんな所に女の子一人でいたのでしょうか？

エル：さーな…。本人は何も分かってないみたいだし…。

ドリル：ってかオルディナトゥールって…変わった名前だな…。

オルディナトゥール：正確には名前ではないのですが…。…私は名前が付けられてないので物体名で呼ばれてました。

ドリル：物体？

オルディナトゥール：はい。私の作られた国のPCの呼び名です。

一同：……ええー！！！！！！？

セリナ：っていうことはっ！？

ミュー：あなたPCパソコンなんですか！？

エル：嘘だろ！？どう見ても本物の人間じゃねーか！！

キアラ：パソコンっていうことはネットとかにも繋げるのですか！？

オルディナトウル：は…はい。

ドリル：まじかよ…。

ミュー：でも、これは好都合ですね。

セリナ：そうね。ねえっ！！

オルディナトウル：はい？

セリナ：“魔聖霊千剣”っていうのを調べてくれないっ！？

オルディナトウル：はい…。少々お待ちください。

イイイイイイン

キュイイイ

“魔聖霊千剣：血と酒を7：3の割合で混ぜ、それを塗られた剣のこと。調合の仕方がとても難しい。酒好きの私じゃないと中々出来ないよー”…と書いてあります。

ミュー……。…。

天道院：なんだソレ…。

キアラ：で、でもよかったですわ！これであいつを…
あ…そういえばお酒…持ってませんわ…。

ドリル：最後の希望が…

オルディナトウール：…酒が必要なら買えばいいのに…。

セリナ：そんなもん、こんなところで売ってないわよっ！！

オルディナトウール：…ネット注文すれば買えるけど…。

ドリル：しかし、すぐに届かないし…。第一こんなところまで届けられんだろ…。

オルディナトウール：出来ます。

セリナ：………まじ？

オルディナトウール：はい。

ミュー：……最近は本当に便利なものがありますね…。では注文してくださいますか？

オルディナトウール：はい。どんな酒にしますか？

セリナ：何でもいいわよ。

ミュー：いえ、“月鬼”でお願いします。

オルディナトウル：はい。

キュイイイン

セリナ：…何でも良くないの？

ミュー：念のためです。

オルディナトウル：…注文しました。

セリナ：あつ、ありがとオルディナトウル。…ねえ、長くて言いにくいからトウルって呼んでいい？

オルディナトウル：“トウル”…？私の…名前…？

セリナ：そつ！まあ嫌なら…

トウル：トウルがいいです！是非そう呼んで！

セリナ：ええっ！宜しくねトウルっ！（…喋り方が時折子供っぽくなるのは気のせいかしら…？）

ドリル：さて、あとは届くのを待つだけだな。

ドドドド…

ドドドドドド

ドリル：…？なんだ！？なんの音だ！？

セリナ：まさか奴が…！？

トトトトト

トトトトト…

????：イエーイー！！

一同：！！？

ロウド：はろろーん！カスタマローリングショップのロウドだお！
ロウドたん、無様な愚民共に”月鬼”を届けに二次元から三次元に出で、また二次元に入ってきたんだお 感謝しなさい！

シャキーン！

ミュー：誰が無様な愚民共ですか…。無様なのはドリルさん一人だけですよ…

ドリル：Σ（。D———）

ロウド：わわっ！やめるんだお！！

セリナ：で、さっさと商品渡しなさいよ…

ロウド：はいはいだお

手に入れた！

月鬼を

ロウド：でわまたのご利用をお待ちしているだお！

ダダダダダダ

ダダダダダダ

ミュー：行きましたんね…

ドリル：にしても早かったな…。

セリナ：まあ、いいわ。これで奴を殺れるわっ！！

キアラ：そうですね！

エル：でもよセリナ、トゥールはどうするんだよ？

セリナ：あ…そうね…。

トゥール：私も…戦う。

キアラ：！？危険ですわ！！もしものことがあつたら…

トゥール：大丈夫…私は壊れた機械だから…。

ミュー：え…！？

トゥール：それに…私の大切なもの、あいつに食べられちゃったの。
だから取り返さないと。

セリナ：それならあたし達が…

トゥール：大丈夫。私、生きていた頃はガンナーだったから…。

ミュー：…！！

セリナ：え？生きていた頃？それってどういう…

ミュー：船長、連れてってあげましょう。

セリナ：でも…

ミュー：大丈夫です。彼女は死にはしません。

セリナ：あんたがそういうなら…

トウール：ありがとう！えっと…セリナさん…。

セリナ：せいぜい気を付けなさいよねっ！

トウール：うん！

ドリル：…（…もしかして…仲間になった、ってこと？）

ドリルさんの居場所がどんどんなくなっているのですた〜

つづくー

|

> i 2 9 3 7 1 — 1 9 5 4 <

ロウド（小二病）

カスタマローリングショップの店員。
これでも年齢は大人。
外見、中身と共に小二病ww

- 第14賊 - (後書き)

今回短いすね。ドリルのせいっすねwww

そういえば前に小二病って何？って聞いたら、「お前のこと」って
言われたことがあります。オイラ小二病なのねそうなのね…。

- 第15 賊 - (前書き)

毎回毎回更新遅くてすいません。今テスト期間なのでばんばんこう
し... いやなんでもないです

- 第15賊 -

こうしてなんとか月鬼と知らない血（ドリルの）を7：3の割合で混ぜ、そしてキアラの太刀に塗ることに成功したセリナ海賊団でした。

セリナ：さて、下準備は済んだことだしそろそろ行くわよっ！

キアラ：はいお嬢さま！止めは僕にお任せ下さいまし！！

ドリル：あー…頭いてえ…。貧血かも…

エル：なんならもつと痛くしてやろうか？

ドリル：いやいいです…。ごめんなさい…

トウール：…早くいこー

ミュー：そうですね。いい加減帰りたいですし。

セリナ：まあ、そうね。じゃ、行くわよっ！

*

天道院：…オレの出番…、これまでか…。

）end（天

道院の出番w）

*

ドリル：（一瞬だったな…）

トゥール：（…あの子、生きているかなあ…？）

シュタツ

キアラ：ウフフフ♪ただいま終わりましたわ♪♪

セリナ：うん。じゃあさっそく家に帰ってあんたは着替えなさい。
全身血まみれよ。

キアラ：わかりましたわ！ウフフフ♪

トゥール：ちよつと待つて。

ミュー：ああ、大切なもの食べられたと言っていましたね。…ありましたか？

トゥール：えつと…ちよつと…

イン…

キュイ

ガサッ

セリナ：！？

トゥール：大丈夫。見つかったから。（…こっちまで来て。）

???.....

コク。

トウール：これはリチエーヴェレ。私からの情報を受け取ることができるの。…基本は動かないけど。

ドリル：こ…これは…。また変わった奴がきたな…。

ミュー：ドリルさんだけには言われたくないでしょうね。

リチエーヴェレ：コク。

ドリル：頷くなよ!!

セリナ：えつと…あつ、あんたも来る？

リチエーヴェレ：……コク。

キアラ：僕つたら中にあなたがいると知らずに思いっきり斬ってしまいましたがお怪我はありませんか？

リチエーヴェレ：……コク。

エル：……こいつ、しゃべらないのか？

トウール：ううん。そんなことないよ。

ドリル：じゃあなんでしゃべんねーんだよ？

トウール：…昔からなの。でも大丈夫、紙と鉛筆持たせているから。

（何か話さない）

リチエーヴェレ：……。

かきかき…

『初めまして、リチエーヴェレです。オルディナトゥールは俺の姉さん。俺は姉さんよりもさらに役に立たないけどよろしく。』

エル：お前ら兄妹なのか。

トゥール：うん。

ミュー：……。あなたも名はないのですか？

リチエーヴェレ：……。コク。

ミュー：そうですか……。船長、

セリナ：えっ！？あたしっ！？？

ミュー：トゥールさんの名を付けたようにリチエーヴェレさんの名を付けてあげてください。

セリナ：え？…あ、うん。…リチエーっていうのは？

リチエー：……。

『…リチエー……。俺の名前……。ありがとう、…嬉しい。』

セリナ：そっ、そう…（よかった…）

ミュー：では帰りましょうか。

キアラ：そうですね！……あ。

エル：道……塞がっているんだった……。

セリナ：……フフフフ

ドリル：ど、どうしたんだ船長……？

セリナ：こんなの、よく考えたらあたしの髪で壊せたのよ。^{ハンマー}はああああ！

ボアキンツ

セリナ：ほらね。

ドリル：……。。。。。

キアラ：さすがですわお嬢さま！！

ミュー：……では帰りましょうか。

★

ギルド：よー……お帰りイ……

セリナ：お帰りじゃないわよこのバアカ！……！あんたのせいでお
うちはたいへんだったのよ！……！？

ギルド：まーまー。おかげで船もこれで手に入るぜ？

セリナ：うつ…まあ、そうだけど…。だっ、だからってあつ、あんなんかに感謝なんて…、これっぽちもしていないんだからねっ！！

ギルド：ははは

セリナ：とっ、とにかく！！あたし達は帰るわよっ！キアラ血まみれだし…。

キアラ：ウフフフ♪

ギルド：ああ。マスター！

マスター：かしこまりました。

セリナ：じゃ、あんた達帰るわよ。

エル：あ、ちょっと待ってくれ、オレはここに残る。ギルドの奴とちょっと話したいことがあるんだ。

セリナ：あ、そう。じゃ、先に帰っているわね。

エル：ああ。

こうして、セリナ達はお屋敷に帰ったのでした。

—つづく—

> i 3 2 7 8 2 — 1 9 5 4 <

リチエーヴェレ（見た目14歳）

バイテラアースの中に埋まっていた子。性別不明。無口。トゥールが
言わないと動かない。

∴正直いらない存在w

- 第15賊 - (後書き)

さてこれである程度のレギュラーメンバーが集まってきたので最初にキャラ紹介のページを入れようとおもいます。よかったらみてくださいね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1965q/>

セレナ海賊団っ！

2011年10月29日16時57分発行